

11

88-2

年少労働調査資料 第28集

夜間高等学校に
学びながら働く年少者

昭和29年6月

労働省婦人少年局

夜間高等学校に学びながら働く年少者

(全国各地の教育委員会、或は高等学校等と行って高等学校定時制課程実態調査資料の要約)

は し が き

年少者が労働しながら通学していることに對し、近時身体の教育の上で、或は財政面との面で、種種の批判的意見がきかれる。そこでこれらの点について、関係機関と協同の上、何らかの調査を計る必要があると考えられる。

既存の青少年労働の調査資料(東京都内の機械器具および金属工業で、従業員50人以上の小企業に働く年少者の実態調査、全国の造船戦艦業の大企業に働く年少者の実態調査)によると、小企業では年少労働者の23%、大企業では37%が夜学に通学し、通学者のうち小企業は32%、大企業は100%の者が高等学校の定時制課程に通っている。そして夜間通学者の53%は奨学生、23%は経済的余裕のないことを訴えている。

通学している者についてみると、大企業、小企業ともに「夜学に行きたいが掛けあい」と答えた者が大半前後で、通学出来ない理由としては時間的、身体的、経済的原因を挙げている。

このように働きながら夜学に通うことは、かなりの困難が伴うものにも拘らず、高等学校定時制課程の生徒数は年々増加し、又増収数も増加している。

定時制高等学校数および生徒数

年度	学 校 数		生 徒 数	
	実 数	推移比	実 数	推移比
昭和23年	1193	100.0%	170,937	100.0%
24	2955	230.9	347,102	203.1
25	2950	247.3	412,175	241.1
26	3153	264.3	492,104	287.9
27	3153	264.3	532,465	311.5
28	3191	267.5	572,223	337.7

注) 高等学校定時制課程には、昼間部と夜間部とがあり、本表はこの両者を合計したものである。

そこでこれらの実態を明らかにするために、教育委員会の方力をえて全国の高等学校定時制課程に関する資料を集め、要約して参考とするものである。

最後に、資料を提供して下さいた教育委員会、各校、関係各位の御協力に對して深く感謝するとともに、この資料の整理中、当局の火災により一部資料を消滅したことを遺憾が申し上げる次第である。

目 次

一、資料送付をうけた都道府県	頁 1
二、集った資料についての説明	1
(1) 資料の作成者	1
(2) 資料の内容	1
(3) 調査資料の説明	1
三、資料集の分類	2
四、我 要	2
五、要 約	6
I 労働状況	6
II 就学状況	12
III 生活状況	14
IV 時 間	15
V 雇 労	22
VI 健 康	36
VII 疾 病	42
VIII 労働と教育との関連に関する意見	44
六、附 表	47

一 資料送付をうけた都道府県

北海道、岩手、山形、栃木、群馬、千葉、東京、神奈川、新潟、富山、岐阜、滋賀、三重、福井、長野、高松、山口、佐賀、長崎、熊本、大分、宮崎、鹿児島、沖縄の33ヶ所から集った資料は、66部であった。

この外、大阪大学医学部衛生学教室の調査資料および婦人少児科の調査資料の一部を加えて要約したものである。

二 集った資料についての説明

(1) 資料の作成者

県当局、県教育庁、県教育委員会、県立高等学校校長協会、主事会および主事協会、地方教育委員会、高等学校、教師、大学医学部、県定時制教育協議会、県定制教育振興会、婦人少児科

(2) 資料の内容

調査資料 → 定時制高等学校分府状況、学校関係予算、経費、諸施設の状況、教員の質および人頭数の実態、生徒の転入、学校、家庭環境およびそこにおける生活実態、定時制教育に対する生徒、教師、雇用者、父兄、その他の意見。

法律に関する論文 → 教育振興法その他。

定時制教育に関する諸論文 → 学校施設、教育内容、教育活動、その他教育一般に関する諸論文。

学校案内、要覧、生活記録、陳情書。

集った資料は、以上のように非常に広範囲の内容をもつものであるが、ここでは年少労働者の労働と教育の関連、年少者が受ける二重負担等に重点をおいて、主として調査資料を中心として要約を行い、それ以外の資料については口次の機会にゆづることとした。

(3) 調査資料の説明

調査者 → 前述の資料の作成者と同じである。

被調査者 → 学校、教師、生徒、父兄、雇用者、市町村主事者、その他。

調査方法 → 懸賞調査、抽出調査

ペーパーテスト、検査、実験の測定結果

調査実施時期 → 昭和25年より26年までに実施した調査

なお、資料取纏めの際、調査の方法や調査の内容等が県によってまちまちであり、ある調査項目については、特定の地方だけのものしかないので、地域的特色が強くうきでいて、普遍性をかくもの、あるいは、項目の分け方がまち

まちであるため、當時で便宜的に一つの概念に包括したものとあつて、資料の正確を兩し難かつた。又調査の方法が妥当性をかくさしめ資料等もあつたが、又筆の傾向は永し得たと思われる。

三 資料要約の分類

切きながら高等学校の夜間定時制課程に學んでゐる生徒の實狀を明らかにするために、労働、就學および家庭生活についての實狀を明らかにし、更に既得の調査によって問題となつた点について要約を行った。

問題点としては、労働と就學を両立させる時最も困難な時間の関係（労働時間と就學時間の関連、睡眠時間の短縮等）、疲労および健康、疾病の問題等が挙げられるので、これ等について項目を設け分類を行った。分類項目は次のとおりである。

I 労働状況

就業状態、就業内容、労働条件（労働時間は除く）、仕事に可する意思

II 就學状況

課程、次期、休學、退學

III 生活状況

家庭の構成、両親の有無、住居状況、生徒の収入と家計との関係

IV 時 間

起床時刻、始業時刻、労働時間、休憩時間、終業時刻、就學開始時刻、授業終了時刻、帰宅時刻、夕食とる時間（時刻）、学習時間、自由時間、就寝時刻、睡眠時間、1日の生活時間

V 疲 勞

内観によるもの（高校生自身の疲労感）、観察によるもの、測定によるもの

VI 健 康

体格、その他

VII 疾 病

視力の変化、内科的疾患

VIII 労働と教育との関連に関する意見

夜學通學に対する使用看、同僚、家族の理解程度、定時間高等學校入學後の変化、労働と学習の両立に対する生徒の意見

四 概 要

I. 労働状況

- (1) 夜間の高校生中の72.7%が勤勞看で、14.5%が家族従事看、残りの12.6%
(2) 、

が風紀兵となつて、大部分の者が昼間働きながら夜間は学校に通っている。

(2) 職業別の産業別分析は、製造業 32.4%、農業 13.8%、会社 13.4%、公務 11.7%、卸売及び小売業 11.6%でその他の産業に従事するものは僅少である。

(3) 職種別分析は、勤務的作業に従事する者が 53.3%、一般的事務 24.6%、給仕及び小使 5.2%、その他 16.7%となつてゐる。

(4) 作業の強度は、中等程度の労働が 52.5%、軽労働 21.5%、重労働 19.7%であるが、重労働の作業従事者は同数である。

(5) 年令は 18才以上の者が 44.6%で意外に多い。又、勤続年数からみても、3年以上の者が 33.4%を占めており、夜間の高技能に対する保護は、18才未満の者だけを対象とすることは妥当ではないように思われる。

(6) 1ヶ月間/回も休日なしで働いている者は 2.1%あり、又、休日のある者でも、1週間に1回程度休めない者が 27.3%あることは注目される。

Ⅱ 就学状況

(1) 遅刻についてみると、1週/回以上遅刻する者が 42.5%を占め、この中には毎日遅刻する者が 10.7%含まれるが、作業開始時刻と、授業開始時刻の調整が必要と思われる。

(2) 欠席率は、大抵 10% ~ 20%程度である。

(3) 休学率は 25年度が 6.5%、26年度 6%、27年度 4%、28年度 3%と徐々に下降の傾向にあるようである。

(4) 進学状況は、入学して卒業するまでの4年間に 46.1%の者が脱落している。そして、進学の理由が本人の意思によるものは、12.4%にすぎず、家庭の事情(経済的食困、家族の意理解等)によるものが 42.2%、勤務の事情(概算、継承)によるものが 17.2%となり、大部分が、本人の意思によらない他動的なものである。

Ⅲ 生活状況

(1) 家庭の職業は、農業 52.7%、商業 11.7%、公務員 5.2%、会社員 5.2%、製造業 2.4%となつてゐる。

(2) 両親の月俸については、両親のある者 23.0%で、両親なし 2.7%、父なし 18.8%、母なし 5.3%となつてゐる。

(3) 生徒の住居状況は、両親とあるいは住込 27%、同居 4.8%で、家族の者と別居している者が 12.5%を占めている。

(4) 生徒の収入と家計との関係についてみると、生徒の収入だけで家計を立

ているのが6.6% 収入の一部を家計の補助にしているのが42.8%を 半数以上の者が家計の中心者あるいは補助者となっている。

Ⅳ 時 間

(1) 起床時刻は午前6時30分から7時までの者が最も多く全体の約60%を占めている。

(2) 労働時間は7時間の者が約60%を占いで7時間、7時間以下の者の順となつてゐるが、7時間を超える者が25%もあつた。

労働時間は地域差、男女差がみられ、職種別にみれば行商、卸売、店員等の労働時間が長い。

(3) 勤務が終業する時刻は午後5時前後が最も多いが、5時30分以後の者も20%弱みられに。

(4) 夜間の定時制高校の授業開始時刻は午後5時30分から6時頃までが多いいが、授業開始時刻に充分間に合う者は少く、丁度間に合う程度の者が約40%、遅刻する者が約30%みられる。

授業終了時刻は午後7時30分から9時までの約50%、9時以後に終るするものが約40%である。

(5) 帰宅時刻は9時30分から10時30分までの者が大部分である。

(6)夕食は、全体の70~80%の者が帰宅後10時から11時頃までの間に食べて、そして約半数は食後直ちに床に就いている。

(7) 学校以外で行う学習時間については、時間無しが約23%、30分以内約26%、1時間以内約26%と、時間無しの者と1時間以内の者を合せると約75%とびつてゐる。このように学習時間は非常に短い。帰宅時刻が遅いので学習時間が短くなるのは当然のことである。

(8) 就寝時刻は午後10時から11時の間の者が最も多く約60%を占め、11時以降の者も相当数みられた。又12時過ぎる者は5~10%であつた。性別にみると男子の方が就寝時刻が遅く、昼間部と比較すると、夜間部の就寝時刻は全体的に1時間半位遅くなつてゐる。

(9) 睡眠時間は7時間、7時間、6時間の者が多いが、6時間以下の者も相当数みられる。昼間部と比べると、どの資料でも夜間部の睡眠時間が短く有眠者、特に勤労者の睡眠時間が短い。

(10) 1日の生活時間について年少労働者と比較を行うと、夜間の高校生は社会的、文化的な時間が長い。そこから通学時間を除けば、それ以外の社会的、文化的な時間は非常に短い。

V 疲 勞

(1) 高校生自身が主観的に答えている疲労感によると、50%以上の者が疲労を訴え、疲労を感じない者は10%未満にすぎない。晝間部と比べると、夜間の高校生は一般に疲労感の比率は高く、勤務者の比率は特に高い。

時間的な疲労感についてみると、起床時に既に半数以上が疲労を訴え、1日中疲労感をもつ者が相当数みられる。

睡眠状態からみても、夜間部は晝間部より熟睡する者が少く、就寝時両中に40%弱の者が眠いと訴えている。

(2) 観察によれば、定時制の高校生は現在の生活に適当に順応していて、一般的には疲労はそれほど甚大とは思われないが、中には疲労が甚しいと思われる生徒もみられるということがいわれている。

(3) 測定結果(生理的、或は精神機能的な諸検査)によると、夜間の高校生は晝間の者に比べ疲労が激しく、その疲労状態は朝には著明に回復するが、晝間部の生徒と比べると疲労度が高く、回復しない者は蓄積疲労の状態をつづけている。精神疲労は筋肉疲労より明らかに現れている。又、晝間就業といった状態により、疲労状態の差異がみられる。

このような調査結果を総合すると、夜間の高校生の疲労は晝間より激しく、労働と就学を両立させることは高校生にとって相当の負担であると思われる。

VI 健 康

(1) 身 格

身長、胸囲、坐高、体重等について晝間と夜間の高校生を比較すると、各果の調査も、又婦人科生局で行った全国の都道府県庁所在地の高校生を対象とした抽出調査も、一部の例外を除いては各果別の平均値も、発育状態も、身体的に夜間の高校生が劣っている。

(2) 定時制の夜間部に入塾してから後の健康については低下したと答えている者が50%弱みられる。

VII 疾 病

(1) 夜間の高校生は視力の衰化が著しく、50%近くが変化をみとめ、近視に悩む者が、近視の程度が進んだ者が多い。

(2) 内科的疾患としては、夜間の高校生は晝間の者と比べると胃腸の疾患が非常に多く、その他前述の眼の疾患、頭痛等が多いことが明らかである。原因としては夕食の不規則、睡眠不足、通学等が挙げられている。

VIII 労働と教育との関連に関する意見

(1) 生徒の主観的回答によると使用料、同僚、家族の夜学通学に対する態度

は、使用看の場合に、非常に非協力的と判断されるもの24%、あまり協力的でないもの33%であり、同様の場合は、非常に非協力的なのが56%、又家族の場合に非常に非協力的なのが43%あまり、協力的でないのが36%となっている。夜学通学に対して、極めて、非協力的なのは、まず同僚がもつとも多く、次いで使用看、家族の順となっている。

(2) 労働と学業の両立に対する困難は、身体的なものがもつとも大であり、次いで精神的なもの、経済的なものとなっている。

以上述べてきたことをまとめると、夜間の高校生は70%余りは勤務看で、労働条件には夜学に行っているからと云う特別の考慮は払われておらず、並労働に従事している看も77%余りみられる。

約半数の看は1週間に1回以上学校に遅刻し、入学して生徒の半数は卒業までに脱落してゆく。

彼らの家庭の職業は約60%が農業で、商業、公務員等の家庭も各々比較的多くみられ、半数以上の看が家庭の中心看或は補助看であつた。

夜間高校生生活の時間的側面をみると、労働時間と学習時間を両立させることにより、睡眠時間が非常に短くなり、夕食時刻は不規則で、社会的・文化的な時間の余裕は殆んどみられない。

疲労状態については、大部分の看が多少に拘らず、疲労を募じ、特に疲労の激しい看も少くみられる。

体格は、身長、胸囲、座高、体重何れも昼間部の高校生に劣り、夜学は胃腸疾患、腰の疾患特定時期夜間部に特有なものが多く、健康状態の低下を訴えている看が相当数みられる。

このように夜間高校生は恵まれぬ家庭環境の下に、一般労働看と同じに働き、その上学校に属う忙しい1日を過ごすため疲労が激しく、体力も低下し、特殊な疾患がみられる。そこで何さばから学ぶことは、年少看にとつて相当の負担であつて、無理に耐えている看身心の発育に悪影響を及ぼしていることも考えられるので、今後早急な対策が実施されることを望ましい。

五 要 約

I 労働状況

(1) 就業状態

(イ) 脱税の有様

鹿児島、宮崎、大分、熊本、佐賀、山口、広島、三重、鳥取、山形、岩手、富山、新潟、柳井川、東京の資料によれば、生業脱税は6,674人のうち

有職者（勤労者及び職業従事者）は、59,796人で、全体の92.4%を占め、残りの7.6%は無職者となっている。又此等だけを示されている概数、佐賀、長崎の有職者は、それぞれ92.3% 92.2% 92.5%で大体前述の流布傾向と同じである。（表1）

次に性別について、佐賀、長崎、東京の資料によれば、男子が総数34,177人のうち、有職者は92.7%を占めているのに対して女子は11,073人中92.5%で、男子の方が、いくらか高い。（表2）

無職の理由について、神奈川で調査した結果によれば、無職者男4人女7人のうち、△全日勤に入学したかつたが、その時期を過ぎた爲今から転換しても同じだ（男2人） △勤めたいが雇がない（男3人） △田がないので家にいなければならぬ（男1人） △暇がない（女5人） △勤めたいが身体が悪いのでやめた（女1人） △家族が多く田がないので家業をみる（女3人）となつて、大部分が勤労を希望しながら就職できない事情にある。

(ロ) 家業従事者

宮崎、大分、佐賀、山口、広島、三重、富山、長野、栃木、神奈川、東京の資料によれば、家業従事者は、生徒総数59,008人の16.5%を占め、さらに有職者中9.3%が家業従事者である。（表3）

次に性別については、佐賀、広島、東京の資料によれば、男子が34,177人中10.7%を占めているのに対して、女子は11,073人中11.4%で、男子の方がいくらか低い。さらに、有職者中に占める家業従事者の割合についてみると、男子が34,177人中20.2%を占めているのに対して女子は2,447人13.4%で男子の方が高い。（表4）

市部と郡部とでは、（無職の調査）市部の普通課程の生徒6,021人中35.2%が家業従事者であるのに対して、郡部の職業課程の生徒の場合、1,410人中27.4%で、郡部が遙かに低く、しかも郡部の大部分が家業従事者であると云えるようである。

(イ) 産業別生徒数

有職者について、産業別の生徒数の調査を行った鹿児島、大分、熊本、佐賀、山口、広島、三重、山形、富山、新潟、埼玉、栃木、神奈川、の調査結果によれば生徒総数26,058人の中、もっとも多いのは製造業の2,416人で全体の9.24%を占め、次いで農業13.8%、会社13.4%、公務11.7%、卸売及小売業11.6%で、それぞれ1割台、サービス業、運輸通信及びその他、の合計等業、建設業、鉱業、金融及保険業、娯楽、林業は僅少である。農

業が比較的多いのは、注目される。(表5)

次に男女別にみると、広島、熊本、佐賀、埼玉、千葉県、の4県が調査されているが、男子では12422人の中製造業3711人で30.5%、農業174%、公務13.0%、会社12.7%、卸売及小売業11.1%等の順となっているのに対して女子は14449人のうち製造業472人で3.26%、公務18.2%、会社12.5%、サービス業11.2%、農業9.5%等の順で、製造業のもっとも多いのは、男女ともに同傾向であるが、男子では農業が比較的多いのに比べて女子はサービス業が比較的目立っている。(表6)

次に家族従事者についての産業別の調査を行った大分、熊本、広島、三重、山口、富山、栃木、鳥根の調査結果によれば、家族従事生労働2761人中半数近い1384人が農業に従事している。休業、隠業については、家族従事者と、勤労者との区別がなされていなかったため、本表にはあらわれていない。(表7)

さらに男女別にみると、広島、熊本の資料によれば、男子295人中農業が63.5%で大部分を占めているが、女子は22.1%にすぎず、半数近くが「その他」の者となっている。(表8)

(二) 職種別生労働

有暇生労働について、職種別の調査を行った広島、山口、熊本の資料によれば10291人中、もっとも多いのは労務で5444人で53.3%、次いで一般的な事務446%、自営12.6%、給仕、小売5.2%、その他4.3%となっている。(表9)

さらに、男女別に調査した広島、熊本の資料によれば、男子では4676人中労務がもっとも多く3257人42.2%を占めているのに対して、女子の場合は523人中一般的な事務がもっとも多く212人40.5%を占め、男女の雇種の相違を示している。(表10)

なお鳥根の調査では、割合だけが示されているが前記とは同傾向である。又佐賀、長崎にも職種別の調査は行われているが、雇業と取雇が混合して、職種別に分類困難であったため、ここには削除した。栃木の調査によれば、生徒161人中、入学以前に現在の取雇が決定されといった者は97人を60.2%を占め、残りの64人は39.8%は入学後取雇を変更して今の取雇についている。

(三) 勤続年数

富山の調査によるものだけであるが、これによれば2107人中、3年未満の勤続者は66.6%で、残りの33.4%は3年以上の勤続者であり、この中

には10%以上も勤務している者があつた。そして一旦社会人となつてから再び学校に入塾して来た生徒が意外に多いことがうかがわれる。(表11)

(1) 年令 別 成

大分、熊本、佐賀、宮崎、岩手、千葉、福岡、栃木、埼玉、神奈川の資料によれば、生徒数22522人中、18才未満の者は55.4%で残りの44.6%は18才以上の者で、中には40才近い者もあつた。勤続生徒の傾向とも考え合せると、夜間の高次生の保護対策樹立の際は、18才以上も多分に含まれることを念頭におくべきであらう。(表12)

(2) 休業 (労務) 内容

(1) 休業内容

大分の生徒222名(福岡を含む)について調査した結果によれば、肉体的勤務がもっとも多く116人52.7%と全体の半数を占め、次いで事務的勤務66人29.7%、外交的勤務53人23.1%となつてゐる。又、神奈川で、生徒258人について調査した結果によれば、筋肉労働を主とするものが、もっとも多く176人68.2%と大部分を占め、次いで事務を主とする者58人22.7%、船仕、接待9人3.5%、果記入17人6.6%となつて、両県の調査結果では、夜学生の大抵が(50%~70%)肉体的労働に従事している。次に男女別を異について、同じく神奈川で調査した結果によると、男女共に、筋肉労働を主とする者が多いことは同傾向であるが、只、男子の場合は72.5%で、女子の52.0%よりも多いこと。又、船仕接待に男子が皆無であるのに對して、女子が、わずかではあるが、2.6%を占めてゐることは、男女の相異点である。(表13)

(2) 休業程度

佐賀で生徒1646人について調査した結果によれば、中労切程度がもっとも多く41.9%と半数に近く、次いで重労切28.7%、軽労切18.7%、その他(遊玩を含む)10.5%となり、又、長崎で調査した生徒501人(男459人、女42人)のうち、中労切62.0%、重労切23.0%、重労切14.0%で、両県の調査結果では大部分が、(41.9%~62.0%)中労切程度の休業を行つてゐるといへよう。しかし、重労切の者が、14.0%~23.7%みられることは、肉体的労働量が、夜学生であるだけに同傾向とならう。次に男女別の差異について同じく佐賀高次の調査によると、男女共に、中労切の者が多いことは、同傾向であるが、重労切が男子16.8%に對して、女子は2.6%にすぎないことは顯著な相異点である。(表14)

(2) 就業状況

山形の調査によれば、204人中、前項の姿勢で作業する者が76人で、32.3%を占め、もっとも多いが、これは、農業に従事する者が殆んどである。矯正運動の必要があるようである。次に坐姿勢が52人、25.4%であるが、これは公務及び会社員が殆んどであつて胸郭を圧迫して胸郭疾患を招くので注意が必要であらう。(表15)

(3) 労働条件(労働時間は除く)

(イ) 休日の有無

1ヶ月を単位として、休日があるかどうか、山口、富山、熊本、東京の4県で、有職生徒42,446人について調査した結果は、休日なしと回答した者3,027人で、7.1%の者は休日なしで忙しくあり、注目される。又、4県の中、休日のない者の割合のもっとも高いのは熊本で、12.3%最も低は富山の1.7%である。(表16)

次に性別にみると、東京の調査によれば、休日がない者男子4.1%に対して女子4.2%である。

(ロ) 1ヶ月の休日回数

休日のある者について、1ヶ月に何回休むか、山口、富山、熊本の3県で調査した結果によれば、休日のある者6,571人中、1ヶ月4回の者がもっとも多く、4,099人で62.4%を占めている。この者は、大抵毎週1回は休日がある者と見做されるが、1週間に1日程度休めばいい者、即ち1ヶ月に3回以下の者は1,797人、27.3%みられることは、さきの休日なしと答えた者と共に向題であろう。なお特殊なものとして、長崎の調査に手に3回というものがあつた。(表17)

(ハ) 職種別の1ヶ月の休日数

長崎の有職生徒の調査によれば、公務員4日、専業主婦3.8日、工員3.1日、店員2.2日で、公務員が休日はもっとも多く、店員がもっとも少くなっている。又、農業に従事している者についてみると、工員3.2日、商業2.3日、農業2.3日で、ここでも商業は最も少くなっている。

(ニ) 賃金(1ヶ月)

28年における有職生徒の賃金階級分布について、大都市(東京)地方都市(山口、長崎、熊本、鹿児島)とを比較してみると次のようである。即ち、大都市(東京)における有職生徒2,790人の賃金階級分布は、4,000円以上5,000円未満の者がもっとも多く、28.3%を占め、これを原座に両極にほぼなだらかに降下しているのに対して、地方都市の9,768人

についての調査では、2000 円未満が35.8%と圧倒的に多くこれをベースにピラミット型を形成している。(大都市では2000 円未満の者はわずかに2.4%にすぎない)又、5,000 円を分岐点とすれば、これ以上の者が大都市では43.7%、に対して地方都市では28.5%と大都市の方が賃金は比較的高められているといえよう。なお趣根では、5000 円以上の階級分布がなく、新卒では6,000 円以上の階級分布がなかったのを、本表からは削除した。(表18)

(下) 男女別賃金

男女別には、趣根と東京で調査されているが、まず地方の無職の場合についてみると、男子は賃金階級分布が全坪にわたっているのに対し、女子の場合は、2,000 円未満までで、2,000 円以上は皆無となっている。東京の場合は、5,000 円をさかいにしてみると、男子の場合5,000 円以上が45.6%あるのに対して、女子は38.3%と両県の調査によっても、男子の方が賃金の高きものが多くなっている。なお前記東京の調査によれば、男子20,155人の平均1ヶ月賃金は5,043円、女子7,755人の賃金は4,684円で男子の方が357円高くなっている。(表19)

(下) 職業別賃金

職業別には、長崎のものを調査されているが、これによれば、工賃6,700円 事務員5,200円 公務員5,700円 店員4,200円 その他2,700円 家業従事者中工賃関係5,000円 農業関係4,000円 商業関係3,700円となつて、工業関係の者が比較的賃金が高い。先に休日日数について、同じく長崎の調査で、商店員が他の職に比較して休日が少ないことを指摘したが、この休日の少ないことと、しかも、こゝにみられるように賃金も低いことからして、商店に従事している者は、非常に肉體があるように思われる。

(4) 仕事に対する感想

(1) 現在の職に対する満足 不満足

現在切っている取巻あるいは仕事に対しての感想について、山形、栃木、富山、山口で調査されているものについてみると次のようである。取巻(仕事)に対する感じの表現が、各県それぞれ異つた表現を行っているので、便宜的に満足している者と、不満、不明の三群に分類した。有職生徒5,735人中現在の取巻(仕事)に対して満足している者は、2,222人を52.2%、過半数は、一應現在の取巻に満足して切っている。しかし、44.8%の半数に近い者は、現在の取巻にあきたりなくて、できれば転職したい希望をもっていることは注目される。東京の場合は、比率だけが示されて

いるが、大体前記の傾向と同様である。(表20)

(ロ) 不満足の理由

では、現在の取場に対する不満の理由はどのようなものがあるであろうか。山口、東京の調査結果からこれを見てみよう。まず、山口の場合は、取場に対して不満をいだく生徒1064人中、取場のかんいさが嫌いだというのが368人(34.6%)でもっとも多く、次いで給料が安い278人(26.1%)仕事がつらい178人(16.6%)生笑に対する理解がない136人(12.8%)取場施設が悪い84人(7.9%)となっている。東京都の場合は、生徒1357人中勤務に時間的余裕がないとする者26.2%、寝れるから26%、仕事が自分に合わない12.6%、取場の環境雰囲気がよくない12.3%、給料が安い10.9%、交通の便がよくない4.4%、時間的余裕もなく寝れるから4.4%、その他4.4%、総記入11.9%となっている。以上の二県の調査結果では、山口では、取場の雰囲気、あるいは、給料が安いということの理由が大部分(60.7%)を占めているのに対して東京の場合は、以上の理由によるものは21.3%にすぎず、大部分(46.3%)が勤務に時間的余裕のない事、又、身体が寝れることをあげていることは、注目される傾向と云えよう。又、仕事に対する危険度については、山形の生徒204人中、危険を感じる者60人で29.4%を占めている。

(ハ) 現在の取場に対する進退の意思

次に、現在の仕事を将来もつづけてやりたいかどうかについて、千葉、栃木の二ヶ所を、有取生徒251人について調査した結果によると、将来もつづけてやりたい者43%残りの57%は将来他の仕事にやりたい者となっている。又、東京都、1357人についての調査では、早退しようと思ふもの29.6%、できれば変りたい者25%、どうしても変りたい19.0%で、将来他の仕事にやりたいもの67.5%に達している。(表21)

II 就学状況

(一) 遅刻

遅刻の回数について栃木で調査されているもの(割合のみ示されて、生徒数は不明)によれば、1週1回以上遅刻する者は、全体の42.5%で半数近いものが遅刻しており、さらに、この者の中には毎日遅刻する者が10.7%もいる。(表22)

次に遅刻の理由について、栃木で生徒228人について調査したものにすれば、(この中には欠席5名も含む)「汽車、電車通学のため」27人11.8%でもっとも多く、次いで、「自宅就業が忙しいため」16人7.0%、就寝先

の起業時刻が5時30分～6時までのために尚、合わせにくくなったもの12人16.6%等が主なものであるが、その他に夕食をたべてくるため遅刻する者がク人7%占めているのは注目されよう。(表23)

(2) 欠 席

富山、高根、栃木、新潟、東京で調査されているものによれば、欠席率は大体10～20%内外である。(表24)

次に一年間における欠席日数の分析について、阪幸を調査したのものによると、2204人中、もつとも多いのは1日～10日の間で、2535人34.7%、次いで11日～20日2304人17.2%と、この両者を半数に達している。又、2日に大体1日の割合を体むもの即ち、1年間に15/日以上のは、128人で18%いる。この傾向は、男女共ほぼ同様である。(表25)

欠席の理由についてみると、県によっていろいろ差があり、一概には云えないが、山口、高根、新潟、富山の4県、生徒数423人についての調査では、病気によるものがもつとも多く3217人39.2%、次いで勤務の都合によるもの2326人27.6%、次が家事の都合1913人23.1%等の順となっており、欠席の理由が、病気あるいは勤務の都合によるもので65%占めていることは、勞働と学習との二重負担の困難性を示しているようである。又、新潟の調査では、前記の「その他」の首の中に家事両立せず36人、叔母がむすかしい3/人、出家3/人、家族の族裔差別17人、取柄の理解があるが、同僚への差遣から1/人、師匠くせをおぼえ1/人、家庭転換1人、学校まで通する7人、通学途中が不安4人となっているが、興味ある傾向と云えよう。(表26)

(3) 休 学

新潟の資料によれば、25年度(7月現在、以下各年度とも同じ)の休学率は約5%、26年度約6%、27年度約4%、28年度約3%と、休学率は徐々に下落の傾向にある。又、休学の理由としては、「取柄の勤務と家事の都合」、「出家」、「欠席したため資料がわからず、するすると休学から退学へ」、「病気」等があげられている。(表27)

(4) 退 学

(イ) 退学率

退学率についてみると、富山の調査では、退学率25年12.6%、26年17.4%、27年12.3%又、栃木の調査では、生徒503人中10/人が退学し、2.0%を占めている。山口の調査によれば、4290人中558人で、13.0%を占めていることからして、退学率は、10%～20%内外といえよう。

1年に入塾した自で、4年生まで進学する者はどれ位であるか。これについて埼玉、新潟、岐阜の3ヶ所で行った調査によれば、1年入学当時52/6人の者が、4年在学中では2705人となり、1年入学当時にくらべて33.7%にあたり、残りの461名の方は、学業半ばにして何らかの理由から、学校を去っている。3年生については68.5%、2年生では76.5%で学業を遂うにしたがって退学者数も増加しているが、2年生で、すでに、25%近くが脱落することは、まことにゆゆしい現象といえよう。(表29)

(イ) 退学の理由

退学の理由としては、富山、岩手、宮崎、佐賀、熊本の4ヶ所生徒数1974人についての調査によれば、家庭の経済的事柄によるものがもっとも多く、307人42.2%、半数近くを占めているが、入学の動機が家庭の事情によるものが比較的多いことからして、貧困のために、やむなく定時制へ入ったものの、その定時制さえも、経済の事情から、あるいは、家庭の不測の事態から断念せざるを得ないような状態におかれて、学業半ばにして退学する者が多いことは、誠に憂慮される傾向といえよう。次は勤労事情によるもの327人16.2%であるが、この中には取柄が疲つたため、あるいは失職のため進学をやむなくこれにものも含まれている。次が自己の怠惰により、退学した者241人12.6%で、学業をつづける怠惰の表徴したものの、この者には、学業に魅力を失つたもの、あるいは、始めから、1年へ2年でめめるつもりであつた者などが含まれている。(表29)

III 生活状況

(イ) 家庭の職業

鹿児島、新潟、佐賀、山口、三重、富山、岐阜、山形、栃木、千葉の資料によれば、12993人中、農業がもっとも多く、597%を占め、次いで商業14.7%、公務員5.7%、会社員5.2%、製造業5.4%となつて、農家の子弟が多いが、これは調査地域の捉え方に問題があるように思われる。なお、農家の家庭が6.3%占めていることは注目される。(表30)

(エ) 両親の有無

鹿児島、熊本、佐賀、栃木、三重の資料によれば、10462人中両親がある者が、78.0%を占めているので、夜間の高校生的大部分は、家庭的には一応めくまれていると云えよう。しかし、残りの22%の者は、勉強と労働の両方のうえで、人知れぬ苦勞を味つてゐるのではあるまいか。(表31)

(ロ) 住居状況

生徒の住居状況について、新潟、岩手、熊本で調査した結果によれば、主

(14)

使収入の割合中、自宅が82.5%を占め、寄宿舍あるいは住込みの借家、両親（主として親戚の家）が4.6%となっている。夜間の高就生という場合、われわれは、その態様が自宅から通学しているものと考え誤り易かつたのであるが、半数は12.5%の寄家、家族と別居している。（表32）

(4) 生徒の収入と家計との関係

資料 山口、広島府の資料によれば、収入のある生徒12,444人中、生徒の収入だけで家計を支えているのが1.6%、収入の一部を家計に補助し、残りは学費、小遣などを使用しているのが42.9%、収入を家計に直接補助しない学費と小遣にだけ使用しているのが27.7%、収入を学費にあて、小遣は家からもらうのが1.9%、又、小遣にあてて学費は家からもらうのが7.9%、収入を学費と小遣にあて、手定金は家からもらう者が1.9%となっている。したがって、半数以上の者が、直接家計を補助しているといえよう。佐賀の資料によれば、生徒の収入があれば、家計がどうしても成り立たないのが19.5%、さらに、生徒の収入があれば非常に家計が苦しいのが、22.3%で約4割のものは、生徒の収入に家庭の経済が依存しているといえよう。（表33）

Ⅳ 時 間

年少者が労働と就学を両立させる時、最も困難を感じているのは時間の面であるし、又何らかの調整を計ることが出来るとすれば、それもやはり制度上の時間的側面の改正が最も容易であり、又必要でもある。そこで年少労働者の生活の時間的側面を明らかにするために、特に時間についての一項目を設けた。

項目の順序については、1日の朝から晩迄の生活の、時間的側面を明らかにするため、朝から晩までの生活の順序にそって時間の項目を並べた。このような順序づけは、時刻と時間が混入されたが、各項目の関連をみるため便宜的にこの順序をとつた。

(1) 起床時刻

年少者の起床時刻は、釜山の調査では午前6時30分が32.8%、6時が29.6%、7時が24.1%となつていて、6時30分から7時までの間に起きる者が全体の66%近くを占めている。（表34）時刻の区別が異なる佐賀の調査では6時30分までの者が32.5%、5時30分から6時までの者が31.6%、6時30分から7時までの者が17.9%で、この調査でも5時30分から7時の間に起床するものが61%余りを占め前の調査と同じような傾向を示している。（表35）

(2) 始業時刻

仕事にとりかゝる時刻について3県（大分、山形、釜山）の調査結果を集計すると、7時に仕事にかゝる者が最も多く、44.4%、7時30分の者は25.3%

％、7時30分の者は14.4％で、7時30分から8時30分までの間に仕事にとりかゝる者が大部分を占めている。又、7時以前には仕事にかゝる者も7.8％余りを占め、夜間の定時制高校に通いはがら初いといふ年少者の始業時刻は、一般の労働者の場合と殆んど変わらないように思われる。(表36)

各県の調査についてみると、大分では始業時刻が8時の者と8時30分の者が各々39.7％を占めているが、山形および富山では8時の者が40.2％余りを占め、8時30分の者は各々20.2％を占めて逆に7時30分の者が各々10.6％を占めている。そこで山形、富山の場合は大分より始業時刻が早いと云う傾向を示している。

北海道の雇用主に対する調査では、426人中、出勤時間を「考慮しておてくしている」雇用主は個人商店に多く、会社、官庁は殆んど「他の者と同時刻」に出勤させている。(表37)

(3) 労働時間

労働時間について調査を行った県は佐賀、山口、大分、熊本、富山、山形等の結果をまとめると、10,070人の中58.6％、6,012人は8時間労働を行っている。次に多いのは7時間労働者を16.7％、1,200人、7時間以下の者14.4％、1,155人である。8時間をこえて働く者は全体の25.2％を占め、労働時間が長くて就労時間に支障があるのではないかと懸念される。尚果計に当たつては、7時間以上と7時間以下の者をまとめてこの項目に入れたが最高労働時間は13時間、最低労働時間は3時間である。(表38の1、2)

次に各々の調査の比率についてみると、どの調査も8時間労働が50％以上を占め、次は7時間労働が比較的多くなっている。但し山形の場合は7時間以下の労働者が42.1％を占め、7時間労働は僅か7.9％で他の場合より労働時間が短い。(表39)

次に佐賀高校生572人について行った性別の労働時間調査によると、8時間労働は女子の比率が高く、女子は76.1％、男子は57.0％であるが、7時間以上働く者は男子の方が10.8％余り比率が高く、男子の労働時間の方が長いことが示されている。(表40)

職業別の労働時間を平均労働時間についてみると、店員が最も長く8.7時間となっている。最も短いものは「その他」の項目の者が7.9％、次は、農業および公務員の6.0％である。又佐賀商業高校の調査によると、174人の高校生の、最高労働時間は11時間、最低労働時間は7時間、平均労働時間は7.7時間で労働時間の長い専業主婦或は御免業、短い職業は家族手伝であった。(表41、表42)

北海道で行った雇用主426人についての調査によると、労働時間7時間30分から8時間30分までと答えた者が70%を占めている。しかし10時間と答へる者も少くあつた。

(4) 休憩時間

富山県の調査によると、210人の定時前生徒の中、38.1%が休憩時間60分、23.2%が休憩時間45分、27%の者が60分以内の休憩時間をもつている。それ以上の休憩時間をもつ者は11.1%ある反面、休憩時間不足の者10.0%。最もと答へる者が7.9%もあつた。(表43)

山形の調査によると、471人の中53.4%が休憩時間1時間以内であるが、1時間30分以内13.4%、2時間以内17.8%と、比較的休憩時間の長い者が多い。山形の調査では、労働時間が比較的短く、休憩時間が長いので、時間的側面からだけみれば労働条件が比較的良いように思われる。これは山形の地産的พิเศษ性によるものか、或は被調査者471人中約30%が農業従事者であつて、他の調査の農業従事者より比率が高いために、或は労働の質が影響しているのか、原因は明らかでない。(表44)

(5) 終業時刻

仕業の終る時刻は栃木および東京の調査によると、前後は午後5時から5時30分までが最も多く42.2%、4時から5時が33.5%であるが、後者は逆に4時から5時までが63.0%、5時から5時30分までが22.7%となつてゐる。5時30分以後まで切く者は栃木17.2%、東京1.4%であるが、この場合は通學に支障をきたすのではないかと思われる。(表45)

次の時刻分類が前の調査と異つてゐる4県(大分、富山、山形、鹿児島)の調査によると、5時に終る者が43.8%、4時30分に終る者が19.0%、4時に終る者が16.0%、不定の者が10.8%となつてゐる。(表46)

各々の調査についてみれば、大分および鹿児島は5時に終る者が70%余りを占めているが、富山および山形は5時に終る者が40%前後で、やや早く4時、4時30分に終る者の数が20%前後を占めている。(表47)

北海道の雇用主調査によると、426人中、終業時刻を「考慮して他の者より早目に終している」雇用主が大部分で、「時々止むなく遅刻させる」雇用主は1.4%である。そして「毎日のように遅刻させねばならない」雇用主も一人あつたが、実際にはこのようなことが相当数行われているものと思われる。

(6) 授業開始時刻

富山県の夜間定時制高校の授業開始時刻は午後5時30分および6時の学校が最も多く各々20%を占め、授業開始時刻は4時から6時30分までとなつ

ている。(表48)

次に授業開始時刻に間に合うかどうかと云う。栃木の調査によると、「丁度間に合う程度」の者は38.9%、「ノ時間には遅刻する」者は21%、「少しは間がある」者は20.1%で、「充分間に合う」者は19.7%にすぎず、労務と親等の間に時間的余裕が少く、相当悪態をしていることが示される。(表49)

次に東京および栃木の各々の調査の比率についてみると「丁度間に合う程度」の者が35%余りと最も多く、次は「ノ時間には遅刻する」者、「少しは間がある」者となっていて、東京と栃木の両方では地段的比率は殆んどみられない。(表50)

授業開始時刻に対する雇用主の希望は、北海道の調査によると、従来の午後5時30分より長時間を希望する面があるが、授業終了時刻が違ひるので、生徒の授業上からも5時40分がぎりぎりのところであろうと記されている。

(7) 授業終了時刻

授業終了時刻を、宮山県の授業の定時刻調査の資料によつてみると、午後7時15分から9時30分迄にわたっていて、9時に終了する学校が最も多く22%、次は8時30分に終了する学校が多く20%を占めている。9時以後に授業が終了する学校は40%あるが、このような場合は睡眠時間に相当影響を及ぼすのではないかと懸われる。(表51)

(8) 帰宅時刻

佐賀の調査によると午後9時30分から10時までに帰宅する者が36%、9時30分までの者は27%、10時から10時30分までの者は25%となっていて、9時30分から10時30分までの間に大部分の者が帰宅している。(表52)

山口の調査では9時30分までに帰りつく者が38.9%、9時までに帰りつく者が36.4%、10時までに帰りつく者は17.3%で、前の調査より幾分帰宅時間が早いが同じような傾向を呈している。又どちらの調査でも、10時30分以後に帰宅する者が少数みられるが、これらの人々が毎日このように帰宅時刻が遅いとすれば、健康に支障を来すのではないかと懸念される。(表53)

(9) 夕食をとる時期(時刻)

夕食をとる時期について5ヶ所(熊本、山口、長崎、栃木、スヶ所)の資料を集計してみると、2291人の中、帰宅後食事をとる者が70.7%を占め、登校前に食事をとる者は27.2%で、学校で食事をする者は1.9%にすぎない。又、各々の調査について比率をみると、全体的場合と同じような傾向を示している。(表54、表55)

宮山および藤取の調査では、3456人の中、65.5%が学校で終つてから目

宅で夕食をとり、27.8%が帰宅前に自宅を夕食をとっている。5.6%は弁当を食べ、1.1%は外食をしている。(表56、表57)

又夜間の調査では男子は81%、女子は75%が下校後に食事をしている。このように夜間調査者の65~80%の者が帰宅後に夕食をとっている。(表58)

又、初冬の調査では帰宅後食事をする者は22.7%で、食後直ちに床につく者が52.5%を占めている。(表59)

夕食の時刻は10時の者が最も多く44.1%、10時30分の者が21.2%、11時の者が9.3%となっていて、夜昏が終って帰宅してから夕食の時刻は非常におそく、甚しい場合は12時のものもある。又登校前に夕食をする者は12.7%あるが5時30分までにとっているのが相当早い夕食と思われる。(大分、上野立高校)。(表60)

佐賀の調査では夕食時刻は10時から11時の間の者が最も多く36%、9時30分から10時の者が26%と、9時から9時30分が22%と同じような傾向を示している。(表61)

(10) 学習時間

学校外における学習時間は、10ヶ所の調査結果を累計した18588名について傾向をみると、学習時間が1時間以内の者が26.0%、30分以内の者が25.7%、時間無しの者22.6%で、学習時間1時間以内の者と、学習時間無しの者を合すると全体の48.5%となっている。このように学習時間が短く、しかも学習時間の無い者が22.6%もあることは時間的余裕が少いことを示し、ある資料には勉強時間を増すために睡眠時間を犠牲にする者もみられると記されている。(表62)

各調査についての比率をみると、学習時間無しと答えた者が多いのは徳山、熊本、山口県等で20~50%を占めている。又時間無しと云う項目のない調査では、最低の項目が学習時間「30分以内」の場合は、その項目の比率が高くなっている。(表63)

学習している者と、していない者について東京の調査によってみると、学習していない者は約20%もあつて、特に男子の場合にはしていない者が多い。このような学習の有無からも学習時間の問題が考えられる。(表64)

学習をする時と場所を、初冬の調査によると、帰宅後に行う者が最も多く41.5%で、次は昼間家で行うもの、28.7%で、昼間勤務先で行うものは非常に少い。(表65)

静岡の定時制生徒5933人のうち昼間制1180人と、夜間制4753人について学習時間を比較すると、学習時間1時間以下の者は昼間制30%、夜間制52%、1

時間の者は昼間制38%、夜間制30%、2時間の者は昼間制22%、夜間制12%で、夜間制の者の学習時間が短いことは明らかである。

北海道の雇用主422人に対する調査では学習時間が「ある」と答えた雇用主と、「なし」と答えた雇用主が偶然半數づつに分れたが、企業別にみると信方では学習時間が「有り」、会社では「無し」の方が多い。但しこの調査の回答者は、比較的に少時間者に対し理解のある人が多いと思われるので、この集計では学習時間が「有り」と云う回答が多かったが、実際には学習時間など殆んどないのが普通である。

(11) 自由時間

大分の資料によると、自由時間が2時間ある者が37.6%、1時間の者が31%、3時間の者が、1.6%ある。しかし自由時間の規定の仕方が明確ではないため、この結果から結論を出すことが出来ないが、自由時間が少ないと云うことは云えるであろう。(表66)

(12) 就寝時刻

4県における3927人の就寝時刻は、平均11時が最も多く35.7%、10時30分が24.7%となっている。次は11時30分の15.4%、10時の13.5%の順になっている。各調査についてみると、大分は時に就寝時刻が遅いが、他は全体と同じような傾向を示している。又、宇都宮の調査でも10時から11時30分が約60%を占めている。(表67、表68、表69)

又、時刻の区分が異なる就寝時刻の調査をみると、何れも10時30分から11時30分が最も多く、10時から12時位の間に大部分の者が就寝している。又、12時すぎる者も5~10%みられる。(表70)

就寝時刻を男子と女子と比べると、女子の方が遅く就寝するものが多い。(長崎、東京) (表71、表72)

昼間と夜間の就寝時刻を比べると、昼間の者は9時30分から10時まで42.5%、10時から10時30分まで24.8%となっているが、夜間は10時30分から11時が30.2%、11時から11時30分が29.0%で、全体的に遅い時刻に多くの者が分布している。(表73)

(13) 睡眠時間

睡眠時間は、3県における被調査人員1212人についてみると、7時間、7時間半の者が最も多く各々35%余りを示している。(表74)

次に4県の調査(長崎、佐賀、大分、熊本)の、山形、栃木、新潟、山梨)の各々の比率によつてみると、殆んどどの調査が睡眠時間7時間、7時間半の比率が高く、調査地域別にみると大分、佐賀、長崎の睡眠時間が全体的に短く、

山形、栃木等は長くなつてゐる。(表75)

睡眠時間の区分の賣っている栃木の調査によると、7時間および7時間30分の者が各々25%余りを占め、次は6時間、6時間30分の者が多い。(表76)

佐賀の調査によつて平均、最長、最短の睡眠時間をみると、夜間部の平均睡眠時間は6.7時間、昼間部は5.3時間で1.4時間の差がみられる。又最長睡眠時間は夜間部9時間であるのに対し、昼間部は7.7時間で昼間部は時間的余裕のあることが明らかである。最短睡眠時間は、4時間とどちらにも同じであるが、これが恐らく睡眠時間の限界を示すものであらうと思われる。(表77)

性別の睡眠時間を比較すると、長崎の調査では男女とも7〜7.5時間が多く、次は6〜7時間が多いが、男子より女子の方が長い睡眠時間をとっている。(表78)

東京の調査では、全体の傾向は前巻と同じであるが、男女別にみれば前巻の調査とは逆に男子の方が長い睡眠時間をとっているので、夜間通学生と睡眠時間については性別にはあまり違いはないのではないかと思われる。(表79)

昼間部と夜間部の睡眠時間を比較すると、熊本、新潟の調査でも、夜間部の生徒の睡眠時間が短く、又熊本の調査と男女の睡眠時間を較べると夜間部では女子の睡眠時間が非常に短い。(表80、表81)

次に耳取首の睡眠時間を昼間と夜間と比べると、昼間は6時間〜7時間の者が約半数を占めているが、夜間は7時間〜8時間の者が約半数を占めている。(表82) (表83)

次に家業に従事している者と、他所に勤務している者を、栃木の調査によつて比べると、家業従事者の方が長い睡眠時間をとっている。(表84)

(44) 1日の生活時間

1日の平均生活時間について、神奈川の定時制生徒と、滋賀県に転入している年少労働者を比較する。但しこの数字については一部不明瞭の点があるので大体的な傾向だけをみると、工場における生活時間は通塾の年少労働者が長い。生産的再生産の時間、家事手伝いの時間はあまり違いがなく、社会的文化的時間は定時制の生徒の方が長くなつてゐる。そしてそこから通塾の時間を除くと、それ以外の社会的文化的時間は非常に少く、その点で定時制生徒は時間的余裕が少いことが明らかである。(表85、表86)

Ⅶ 疲 勞

幼きながら夜間の定時制高校に通学している年少者には、疲勞している者が多いと云うことが云われ、又多くの調査で疲勞を訴えている者が多いことが示されている。

そこで疲勞の調査を次の分類によつてまとめ、その実状を明らかにしようとするものである。

分 類

(1) 内観によるもの（高校生自身の疲勞感）

(2) 観察によるもの

(3) 測定によるもの

生理的検査
精神、機能検査

(4) 内観によるもの

(1) 疲 勞 感

労力が学習に与える支障についてみると、三県（三重、鳥取、徳島）の調査を累計した2006人の中、支障ありと云うものが49.3%、支障なしと云うものが50.7%で約半數づつを占めてゐる。更に各県別にみると、支障ありが最も多いのは三重で、少ないのは鳥取であるが、大體全体の傾向と大差はない。（表 85、表 86）

次に昼間部と夜間部を三重の調査によつて比較すると、昼間部は支障ありが22.62%に對し、夜間部は59.69%と半數以上が支障あることを示している。（表 87）

労力と勉學の生活をしていて常に疲勞するかと云う質問に対して、男子は58.1%、女子は61.8%が「疲れるが一晩ねれば恢復する」と答え、男子33.0%、女子26.2%は別段疲勞を感じないと答えといるが、男子4.4%、女子7.6%は疲勞しつゝいると答えている。そこでこの調査では女子の方が幾分疲勞する者が多い傾向に思われる。（表 88）

五段階に分けて調査を行つた鳥取、山口の調査によると、「少し疲れを感じる。」者が鳥取32.0%、山口は22%で最も多く、「殆んど疲れを感じない。」者および「元氣一杯」の者は10~20%で大部分の者が疲れを訴へ、どちらの調査も同じような傾向を示している。（表 89）

兼習の調査により、通學の疲勞を感じるかどうか、昼間校の生徒（家庭及び家事従業者）と夜間校の生徒（勤務者）を比べると、「疲れない」者は夜間では7.4%であるが、昼間校では18.3%~28.8%である。それ以外

の者は「やや疲れる」「非常に疲れる」と答えていて、夜間校の生徒に疲れる者が多いことを示している。(表90)

山形の調査で、一日中取場で働いて疲労を感じるかどうか質問に対して、職種別の回答を見ると、大部分が職種の者が「疲労を感ずる」と答へ、疲労が翌日まで残る者も少ぬみられ、特に印刷出版業、金属機械業等は疲労が翌日まで残る者が多い。全部を総計してみると、「疲労を感じない」者は12.6%にすぎない。

疲労を感じる部位は、全体では「腰」24.1%、「肩」17.4%、「脚」13.7%、「目」11.2%等が多い。職種別にみると、農業者では「腰」「背中」、木材業では「腰」、「肩」、印刷出版業では「脚」、金属機械業では「腰」「肩」、商業では「脚」、公務、会社では「目」「肩」等が疲労すると回答している。その職種の仕事の特殊性を明らかに示しているともみられる。(表91)

疲労の度合を大、中、小に分けて調査した栃木の343名に対する調査では、疲労が中と答えた者が25%と最も多く、疲労が大と言う者は13.4%であつた。(表92)

(四) 一定の時期における疲労感

疲労についてある一定時期を区切つて調べたものについてみると次のとおりである。

起床時の疲労感には「初ともない」者が昼間部86%、夜間部89%で「疲れている」者は昼間部13%、夜間部3%となつていて、夜間部の半数近くの者は疲れていて、しかも8%の者は「極めて疲れている」と答えている。

このように夜間部の者の半数近くは起床時に既に疲労を訴へ、前日の生理的疲労が回復せず、蓄積疲労となつてゐることを示している。

佐賀 (表93)

登校時の疲労状態は、疲労「中」の者が58.6%、「小」の者が30.7%で、「大」の者は5.0%であるが、下校時の疲労状態は、疲労「中」の者が50~60%、疲労「大」の者が20%前後となつて、疲労「小」の者は10%前後に減じてゐる。(佐賀)(表94)

登校時の疲労感について夜間部と昼間部の者を比べると、「極めて疲れている」者は夜間部22%、昼間部2%、「疲れている」者は夜間部59%、昼間部29%で、夜間部では80%以上の者が疲れてゐると答えてゐるが昼間部では約30%の者が疲れてゐると答えてゐるにすぎない。(表95)

次に登校時と下校時の疲労感を 勤務者、就業者、非労働者と男女別に分けてみる。

登校時の疲労は、勤務者の疲労のものが最も激しく、（疲労感のない者は6%）次に就業者の疲労、無業者の疲労、無業者の疲労の順となっている。又下校時の疲労は、全般に激しくなっており、やはり勤務者の疲労のものが最も激しく、（「疲労感なし」は10%、「疲労度小」は7%、「疲労度中」57%、「疲労度大」は24%）登校時の場合と同じ順位を示している。（此頁）（表96）

学校で疲労を感じはじめた時刻は、3時限の途中からの者が最も多く32.2%、2時限の途中からの者が22.2%、4時限の途中からの者が18.7%で、4時限までに大部分の者が疲労を感じる事になる。但しこの場合、1時限の時間量については不明である。（山口）（表97）

生徒の自覚した1日の疲労感を、覚醒時、休憩、就寝時に分けてみると、何れの場合も疲労「中」の者が30%余りを占め、疲労「大」の者は概して最も多く30.8%を占めている。しかし覚醒時および就寝時にも疲労「大」の者が25%余りを占め、又疲労「中」の者も全時刻を通じて30%余りを占めていることから、70~80%の者が1日中疲労感を持續していることが明かである。（長野市立高校）（表98）

宿木の調査によって、1日で最も疲労する時刻をみると、15時が最も比率が高く、1は2%、22時が11.0%、14時および20時が10.6%と、9時、10時に最も疲労を感じるとする者は無かった。そこで勤務中が14時、15時と、学校在学時および帰宅後の18時から22時までの2時期に最も疲労が激しいことが示されている。（表99）

1年を通じて最も苦痛を感じる時期は、寒中11.5%、酷暑10.5%、梅雨期9.0%で、その他季節について何も感じない者が63.4%あった。（山口）（表100）

(11) 睡眠状態からみた疲労

睡眠の状態が、疲労と何うかの関連をもつことは当然のことと認められるので、睡眠の状態から生理的疲労状態を知ることの出来るとして、睡眠状態の調査を兼計した。但し内容的には前の疲労の部分と重複している部分もある。

① 起床時の状態

起床時の状態を神奈川の調査で男子、女子、定時、全日に分けて比較すると、「気持ちよく目がさめる」ものは定時の比率が最も高いが、「一寸ねむりが起きてしまえば平気」の者は全日のものがずっと高い比率を占めている。そして「もっとねていたい」、「起きるのが苦痛」は定時の比率が何れも高い。男女を比べると女子の方が疲労起床時の気分がよい者が多い。（表101）

② 授業中の状態

「そう眠くない」者が最も多く537人の52.5%を占めているが、「非常に眠い」者と「かなり眠い」者が約30% いることは疲労の現れであるとも云えよう。(山形)(表102)

③ 睡眠状態

神奈川の調査により睡眠状態を定時制、全日制、男子、女子別に比較すると、全日制の方が男女とも熟睡するものが多く、「うつらうつらしてよく眠れない」、「夢をよくみる」等は定時制の方が、全日制よりも多い。男子と女子を比較すると一般に男子の方が熟睡し、夢や仮醒の比率が少い。(表103)

(2) 服装によるもの

神奈川の資料により、定時制高校の生徒として挙げである中から服装の部分を抽出すと次のとおりである。

一般的に言われる様な過労な状態にはない。

- ① 全体的にそれ程疲労が大であるとは思えない。
- ② 特に疲労していると思われる注意すべき生徒はみられない。
- ③ 全日制と比較してその生活条件は不利であるが、生徒の学習意欲により、或は個人的に生活を調整している為か現在の生活に対して適当に順応している。
- ④ 学校の哲学の場であると同時に、いこいの場としている。

(3) 測定によるもの

(4) 定時制高等学校生徒の疲労度の測定

労働科学年報(大阪府立労働科学研究所)に掲載されている、大阪大学医学部衛生学教室の調査報告をまとめると次のとおりである。

夜間の定時制高校生徒の疲労状況を科学的に捉えるために、生理学的方法、生化学的方法、心理学的方法を各々一つづつ、用い、高等学校の定時制並びに昼間制の生徒の疲労度を測定し、疲労度の比較と、その疲労が生理学的なものか、習慣的疲労かという点と基礎疲労の原因について検討した。

① 調査条件並びにな法

オニキ年の男子生徒定時制172人、昼間制 65人を選検者とした。検査方法は次の三つを採用した。

- [1] 生理学的な法として皮膚空同調法
- [2] 生化学的方法としてザレブリニー氏法
- [3] 心理学的な法として内観法

② 成績並びに考察

① 定時制と昼間制の比較

三方法による疲労検査の成績は表Aの示すとおりで、各々の平均値の定時制と昼間制の差は有意であつた。換言すれば三方法の検査成績はともに定時制の生徒が昼間制の生徒より疲労が入つてゐた。このことは前に述べて行つた調査でも認められた。

表A 横町第二商業学校定時制並びに昼間生徒の
疲労検査成績

期 定 法	定 時 制	昼 間 制
I 皮膚空同調法 (生理學的方法)	(172名の平均値) 21.1 ± 4.9	(85名の平均値) 16.3 ± 3.6
II サンプルール法 (生化学的方法)	6.7 ± 0.1	6.9 ± 0.1
III 内 観 法 (心理學的方法)	11.6 ± 2.3	10.1 ± 2.5

(調査時刻午前8時～9時)

② 定時制生徒の朝の疲労度

定時制生徒の疲労度が一日を回復するかどうかみるために朝行つた調査結果が表Bである。

表B 定時制生徒の朝の疲労度

観 定 法	定 時 制 生 徒
I 皮膚空同調法	(96名の平均値) 16.2 ± 3.1
II サンプルール法	6.8 ± 0.1
III 内 観 法	10.1 ± 2.1

調査時刻～朝

表Aと表Bを比較すると、朝は皮の成績に比して著明に疲労度の回復が認められるが、進歩間部の生徒よりは疲労度が高い様がある。

そこで2方法以上において疲労度の経状した者の疲労を生理的なものと考へ、3方法中何れか2方法以上に於て疲労度の経状しなかつたものを蓄積疲労の状態にある者と仮定して検討すると、前者は31人、後者は33人になつた。即ち約60名の者の疲労の原因は生理的なものと考へられるが、約40%の者は蓄積疲労の状態にあると考へられる。

③ 蓄積疲労があると思われる者の原因調査

3方法中何れか2方法以上において疲労度の経状した者とせうとなり者を各取種別に分類したものが表Cである。

表四 取 扱 別

取 扱 別	3ヵ月以内に治癒し たか或は経過の 軽快した者	軽快しなかつた者	Σ
前内分切	19 (13.8)	4 (9.2)	23
手術	10 (15.0)	15 (10.0)	25
商業	21 (21.0)	14 (14.0)	35
職 業	1 (0.6)	0 (0.0)	1
Σ	51	33	84

(注) 結核内は各々の種を51:33に分けて区別する
度数である。

査問事務系統の仕事についている者は普通療養の状況にある者が多く
前内分切に経過している者や手術者は意外その療養が生理的なものに止ま
つてゐる者が多い。商業に従事している者は、自分の回復しなかつた事
も相當あつたが、回復した者と比較して特にこの仕事が増えといへない。

睡眠時間。療養中の軽快した者の平均は24時間±1/1で、軽快し
なかつた者の平均は24時/日+14で5%の有意水準ではこの二つの差
は認め難く、睡眠時間からは二者を論ずることは出来なかつた。

寝つきがよいか悪いかによつて療養中の経過、すなはち分類したのであ
る。

表D 寝つきがよいか悪いか

	3ヵ月以内に治癒し たか或は経過の 軽快した者	軽快しなかつた者	Σ
寝つきがよい	42	22	64
寝つきが悪い	9	11	20
Σ	51	33	84

この表から、10%の有意水準で寝つきの悪い者は普通療養をするとい
う結果が示された。

毎1夕食(朝へは給食)をとつたかどうかという点からみたのが表E
である。

表E 毎1夕食(朝へは給食)をとつたかどうか

	3ヵ月以内に治癒し たか或は経過の 軽快した者	軽快しなかつた者	Σ
毎1夕食(朝へは給食 をとつた)	41	23	64
とらなかつた	10	10	20
Σ	51	33	84

この表にみられるように、夕食をこつた者で疲労回復しなかつた者は36.7%であるが、朝も食べなかつた者はその半数が回復してゐない。そこで夕食時に何も採らなかつた者はその為の有様次第で蓄積疲労をしていると考えられる。

尙の調査の際に疲労の感じと疲労との関係をみると、疲労の自覚感では、主役の疲労程度に於ては尙ら蓄積疲労の目安にはならないことがわかつた。(表F)

表F 疲労の感じとの関係

	3方法または2方法において疲労が軽減した者	疲労しなかつた者	Σ
疲労している	13 (18.0)	12 (16.0)	25
少し疲労している	32 (30.0)	18 (20.0)	50
疲労していない	6 (4.4)	3 (3.6)	9
Σ	51	33	84

(3) 要約並びに結論

(1) 三ヶ所の何れの調査においても、定時制の生徒が一般に昼間制の者に比べ疲労している状態を認めた。

(2) 更にその疲労が生理的なものが、或は蓄積されてゆくものがあるために、定時制の生徒の朝の疲労度を同じようにして測定した結果、一般に睡眠に回復することが判つた。しかし昼間制の生徒の平均値よりも著高いため回復しない者を追究した結果、約40%の者が蓄積疲労の状態にあると認められることを認めた。

(3) 疲労が疲労しなかつた者の原因を、取極、睡眠時間、生活状態より求めたところ、昼間に事務系統に従事する者が疲労の回復が悪く、睡眠時間には余り余裕はないが寝つきの悪い者は蓄積疲労が多く、又夕食と朝食後深夜更にとる夕食との間に何も食事をしない者も疲労の回復が悪れることを認めた。

(4) 学習前後の疲労度の測定

佐賀工業高等学校で、定時制 47人、全日制 50人(高校生一年)の生徒について行つた疲労度測定の結果は次のようである。調査方法としては

- ① 血漿、体温、脈搏数 ② 虚容動脈調節法、矢数三式 ③ クレバリンテスト ④ 尿検査 を実施した。

調査結果を各方法ごとに記すと次のとおりである。

① 休息は何れも増加する者が多い反面減少する者も可成あり、眠得数は全日は減少するものが多い。

② 志本動作簡便表によると同着とも初期疲労は興奮性が多く中等疲労も可成ある。

表G 実験心理学的方式による学習前後の疲労度の比較

a.	意志動 作簡便表	初期疲労		中等 疲労	過度 疲労	合計	備 考
		発 起 時	制 止 時				
		度 時	人	度 時	人	人	
	度 時	7 ^h	2 ^h	27 ^h	4 ^h	40 ^h	中枢神経に於ける欠
	全 日	15	1	25	2	43	運動の確正性を検査する。

計算方法では、昼食行ふが数課時に於て疲労するものもある反面、疲労を感じない者も多い。放課後を比較すると、在校時中等疲労しない者も多く、疲労増加者は全日に多いようで反面減するものもあると思われる。

表H 実験心理学的方式による学習後の疲労度の比較

a.	疲労 度	初 期 疲 勞					中 等 疲 勞				
		度 時	人	度 時	人	合計	度 時	人	度 時	人	合計
		度 時	人	度 時	人	合計	度 時	人	度 時	人	合計
	度 時	30 ^h	11 ^h	3 ^h	1 ^h	45 ^h	26 ^h	8 ^h	1 ^h	35 ^h	35 ^h
	全 日	33	9	1	—	43	25	11	7	43	43
	放 課 後		+	—	疲労を 感(ず)い	合計					
	に於ける 度 時	5	2	22	33						
	全 日	15	6	21	42						

③ クレバリンテスト

始業時は其時期は作業量が少く、誤りは大であるが、数課時は何れも作業量は増加するが、定時の増加数は低く、誤りは益しく低下している。尚その内容を分析すると作業量増加者は両着とも多く、尚その中誤差率の減少したものが多く、尚作業量減少者は全日制に多いように思われる。

④ 尿 検 査

激しい疲労に伴い尿中に蛋白が出現するが、生徒の疲労度の程度および通学条件が及ぼす影響について検査するため、スルホサリチル酸法と蒸溜法を同時に併加した。定時は日により異なるが疲労なしもあり、蛋白尿出現者も疲労度の多いようである。抽出検査であるが今直ちに判定を下すことは出来ないので、昼食前の疲労の影響は、あまり見られないようで、疲労中、大のものは特に当日数疲労をしたものであつた。そして定時、全日とも微量の蛋白尿出現者が多く、尿は酸生が殆どで、尿色も濃い者が多いので昼食時の疲労が考えられる。その後は作業内容により

差異を生じ、又並に放課時疲労回復する者もあるらしい。定時は放課後の判定不可であるが、恐らく回復するものもあることが予想される。

表Ⅰ 疲 倦 値

定 時 間 (午 夜 時)	ス レ ッ ク	非蛋白窒	血	土	月	火	水	木
		素	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8
		素	1.1	1.2	1.2	1.2	1.2	1.2
		素	1.1	1.2	1.2	1.2	1.2	1.2
	ス レ ッ ク	素	1.1	1.2	1.2	1.2	1.2	1.2
		素	1.1	1.2	1.2	1.2	1.2	1.2
		素	1.1	1.2	1.2	1.2	1.2	1.2
		素	1.1	1.2	1.2	1.2	1.2	1.2

結 論

- (1) 学習前後の疲労度の比較に於ては登校までの条件は全日に概し著しく劣るとは考えられず、疲労による影響は放課後以外は大きな影響を与えないと思われる。(著しき昼食後の出現なし)
- (2) 精神疲労は筋肉疲労よりも明らかに視覚神経中枢の分岐の確立性についての疲労は定時に多く見られ、注意集中力では全日が疲労するものが多く、又回復度合は定時が多いように見られる。学習時間、夏期等の影響が考えられる(夏季の場合)
- (3) クレバリンテストによれば、定時間には登校後気量も低下し、学習時間も短いため疲労も少くなり回復するものもあることが考えられる。
- (4) 夜間定時間では疲労度は最初高く、次第に回復する傾向が証明される。
- (5) 遠距離通学等中にはかえつて疲労の回復するものがあるようにみられる。

(II) 疲 勞 測 定

山形の資料により、疲労測定の結果をみると次のとおりである。

- ① 本川式電気内光器簡易新式フリッカーによる疲労測定法の結果(実験対象生徒39人)

(1) 電気内光線の変動をみると表1のように夜間学習による疲労の程度別傾向は農家、専業主婦、木材業者の所謂肉体労働者がその変動差大きく、印刷業、食品製造業、商業等は授業後気量の低下を示し、夜間学習の疲労はみられなかった。

(2) フリッカー値は0.5以上の変動差をもつ状態を疲労したものとして算出すると農家、運輸通商業、全機械業、食品製造業は気量の低下を示し

疲労したように観察された。以上の実験成績により両側眼視が疲労傾向を示すものは所謂全体的疲労と、(農業、乗込業、運輸、木材)、電氣内光値によつて疲労を示す眼症がフリッカー値にはみられないこと云ふものは直向眼症による所謂局部的疲労(印刷業、食品製造業、金属機械業等)即ちこの場合一柱の眼精疲労と推定される。

表J 電氣内光値・フリッカー値

取 業 別	人 員	電 氣 内 光 値		フリッカー 値	
		夜 間 前 値	前夜間作業〜夜間値夜間	夜 間 前 夜 間	前夜間値〜夜間値夜間
農 業	3人	1.3	0.13 (+)	16.0	3.7 (+)
運 込 業	3	1.9	0.1 (-)	14.0	0.7 (-)
食品製造等	3	1.3	0.1 (-)	15.0	1.3 (-)
木 材 業	4	1.05	0.1 (+)	14.8	0.8 (-)
印 刷 業	3人	1.7	0.1 (-)	14.0	1.0 (-)
金属機械等	4	1.5	0.02 (+)	13.5	1.5 (-)
商 業	4	0.8	0.08 (+)	14.5	0.3
運輸通信等	4	1.1	0.02 (+)	15.2	1.7 (+)
サ ー ビ ス 業	3	1.2	0.03 (-)	13.3	0.3
公 務	4	1.2	0.05 (+)	14.3	1.0 (+)
足 取	4	1.1	0.08 (+)	14.7	0.6 (+)

② ドナジオ、O.K. 炭酸。(実験対象生徒 42人)

被検者25名に試薬を加え操作し、一定時間放置した後に標準比色器と比較し、同程度の黄色状態をもつて点数をつけ、点数により疲労度を測定する。

表K ドナジオ反応点数別疲労の基準

0点〜2点	疲労はないか又は軽度の疲労を示す。
2点〜4点	中程度の疲労を示す。
4点〜6点	稍高度及高度の疲労を示す。

6点は疲労限度の時に非視される尿に多く配れる反応でこれが最高である。

実験結果によると、右んどが直向勤務による高い疲労度を示し、特に製氷業の成績は主眼と要する。又両眼等時直向被検者D、O.K. 値の高い傾向を示し、直向勤務の疲労と夜間学習の疲労が重なりあつて高貴疲労となつてゐるものと推定される。要言、説明書の読書の影響して

いる長も多いためである。

表 L ドナジョ O K 反応

職業	人数	D O K		F
		授業前	授業後	
農 業	4	4	0.8	+0.2
建設業	3	4.3	4	-0.3
食品製造業	2	3.5	4.5	+0.5
製衣業	1	5	5	0
木材業	3	4.3	5	+0.7
印刷出版業	3	3	3.3	+0.3
非金属工業	2	2.5	3.5	0
金属機械業	4	4	4.2	+0.2
商 業	4	3.8	4.7	+0.7
運輸通信業	4	3.2	3.8	+0.6
サービス業	3	4	4.3	0
公 務	4	3.7	3.7	0
学 校	4	3.5	4	+0.5
化学工業	1	4	4	0
	42			

以上表連別に、肉体的疲労を測定する方法としてはドナジョ O K 反応（D O K 値）、精神的疲労判定には本川式電気閃光器法（F 値）を用いたが、次に肉体的疲労者（農業、建設業、食品製造業、製衣業、木材業、非金属、化学工業、金属工業、商業、運輸業）と精神的疲労者（印刷業、サービス業、公務、学校）とに大別して、昼間状態による疲労と、夜間学習による疲労の両面を観察した。

(I) 肉体的疲労者或精神的疲労者に比して授業前の D O K 値は高く、F 値は低いので、肉体的疲労者は精神的疲労者に比して肉体的疲労は大であり精神的疲労は小であると見える。

又授業前に比し授業後の D O K 値は高く F 値は低い方に傾いている。

そこで肉体的疲労者の疲労度は昼間労働による肉体的疲労と夜間学習の疲労が重なって、精神的疲労者より高くなったものと思われる。

(II) 精神的疲労者は授業前の D O K 値は低いが F 値は高い、授業後は D O K 値は低く、F 値は低くなっている。即ち肉体的にはあまり疲労しないが、精神的には疲労して登校していることが明らかである。

表 M ドナジョ値、フリッカー値

肉体的 疲労者	D O K			F		
	授業前	授業後		授業前	授業後	
	40	44	+0.4	128	130	+0.02
精神的疲労者	36	38	+0.2	135	141	+0.06

③ ダウニイ市武志志勤労調節法

神経中枢のみに過剰より疲労度をみると、多量にわたり高度疲労の型が相次々を占め、これが取違に契りなげごと。疲労初期型が多額を占めていることがみられる。又この検査は精神的疲労度を測定するものであるから、肉体的疲労をしてきた生徒は、精神的疲労をしてきた生徒も、等しく授業による精神的疲労が加つていることが明らかである。

表N ダウニイ市武志志勤労調節表

職 種 区 分	職 業	農 業	建 設 業	食 品 製 造 業	製 衣 業	木 材 業	印 刷 出 版 業	化 学 工 業	非 金 属 工 業	金 属 工 業	商 業	金 融 業	運 輸 通 信 業	サ ー ビ ス 業	公 務	教 育	そ の 他	合 計	市 立 中 学 校
調査人員	31	2	5	4	14	10	0	3	24	32	0	4	7	37	44	0	349	11	
疲労初期	1A	21	1	3	4	4	3	0	1	11	10	0	3	4	8	15	0	82	45
疲労初期	1B	10	0	0	0	1	1	0	1	3	1	0	1	0	2	0	24	5	
中等疲労	2	13	0	0	3	2	1	0	1	7	5	0	0	0	3	7	0	62	9
高度疲労	3	7	1	1	1	7	5	0	0	33	16	1	4	3	14	24	0	151	35

表O ダウニイ市武志志勤労調節表

区 別	調 査 人 員	1A 疲労初期	1B 疲労初期	2 中等疲労	3 高度疲労
農 業	4		1	2	1
建 設 業	3			1	2
食品製造業	4	1		2	1
製 衣 業	2				2
木 材 業	4	1	1		2
印刷出版業	4	3			1
非金属工業	1	1			
金属工業	3	2			1
商 業	4	1	1	1	1
運輸通信業	4	1	1	1	1
サービス業	4		1	1	2
公 務	4	1	2		1
教 育	4		1	1	2
計	45	11	7	10	17

④ 総 算 え 法

総算文法は一定時間注意を要せし、細かい点の併を正確に算入する能力が、疲労時に減退することから、疲労測定に用いられる。この測定は3枚

の検査用紙の誤を算え、実際の数と、数えた数の誤差により結果を決定する。

取巻品の報告する数が報告していない時ほう實際に等しいが、主として前差値まで、あるが、報告が違ひに違つて、誤差の絶対値が相違大し、誤差の代数和が一方に傾いてくる傾向がある。報告が極度に違した時は、取巻品は算えられなくなるが、途中で改直してより、前差時間は一般に報告により影響されることのみが、取巻品によつては時間により変化が現れる事がある。取巻品の検査結果は次の通りである。

表P. 誤 数 え 法

	代 数 (誤差)												総 計 数 (誤差)											
	製 業	建 業	食 品 製 業	製 材 業	印 刷 業	非 金 属 工 業	金 属 工 業	商 業	運 輸 通 信 業	サ ー ビ ス 業	公 務 業	製 業	建 業	食 品 製 業	製 材 業	印 刷 業	非 金 属 工 業	金 属 工 業	商 業	運 輸 通 信 業	サ ー ビ ス 業	公 務 業		
-15																								
-14																								
-13																								
-12																								
-11																								
-10																								
-9																								
-8																								
-7																								
-6																								
-5																								
-4																								
-3																								
-2																								
-1																								
0																								
+1																								
+2																								
+3																								
+4																								
+5																								
+6																								
+7																								
+8																								
+9																								
+10																								
+11																								
+12																								
+13																								
+14																								
+15																								
-	1	3	3	2	2	3	1	2	1	2	1	2	2	1	1	1	3	2	1	2	2	1		
+	2			1	1	1	1	2	1	2	1	2	1	1	2	2	1	1	1	1	1	1		
計	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3		

⑤ 自覚的症狀調査

自覚的症狀調査によると、一般に發病した時に既に覺れていて、めく
ひかせる、ぬむくなる、きちんとしていられなけり等と答へてゐる者が多
いのば疲勞度の高いことを示すものと認めれる。

表Q. 自覚的症狀調査

A 身体的症狀		B 精神的症狀		C 精神感覺的症狀	
1) 頭がおもひ	43	頭がぼんやりする 50 1) 頭がきほせる 9		目がかれる 35 1) 目がちろちろする 16 目がぼんやりする 17	
2) 頭がいたい	19	きへがまとまらなけり 49 2) きへるめが遠くなる 26		目がしばい 17 目がかわく 6	
3) 全身がだるい	31	一人でいたけり 2 3) けずりかゝりやになる 13		動脈がきこえなくなる 4 3) 動脈がきこえたりする 3	
体のどこかがだるい 24 4) 体のどこかがいたい 2 体のどこかめずむがる 3		4) いらいらする 14		足もとがたよりなり 2 4) ふうつく 6	
5) きかふる	25	5) ぬむくなる 49		味がかわる 4 5) 鼻がはなにつく 15	
6) いき苦しい 4 もなぐるしい 8		6) きかふる 14		6) めまりがする 7	
7) 足がだるい	22	7) 物事に意欲にたれなり 23		7) まいたせう他の脚が にくにくする 17	
つばがでなけり 3 8) 口がぬける 5 口がかわく 19		8) 一せしむ事が思出せなけり 35		耳が遠くなる 7 8) 耳なりがする 8	
9) めくひかせる 52		9) することに自信がなけり 34 することにきこえたりする 3		9) 手足がふるふる 5	
10) ひや汗が出る 7		10) 物事が先にかゝる 33 物事が心配になる 21		10) きちんとして いられなけり 31	

(午後7時20分 終結)

これらの疲勞の原因は、最近まで學校にあり、又翌日朝早く養血の人
と同じ様に勤務しなければならなけりとする。精神的、肉体的なハンディ
キャップがこの疲勞をもたらしたものと認めれる。

そこでこの疲勞を少しでも少なくして、學習条件をよくして勉強をは
じめることが必要である。

Ⅵ 健康

健康については、体格からある程度の健康状態が推察されるものとして(1)体格、(2)その他の健康状態を示すものの二つの項目に分けた。

(1) 体格

(イ) 身長

佐賀の調査により平均身長について年令別に、定時制、全日制、全国の比較を行う。男子の全日制は年令が高くなると全国より高くなるが、定時制は若くとも全日制、全国より低い。女子の場合は定時制は全日制との差はあまりみられないうが全国よりは低い、但し18才では全国水準より高くなっている。(表104)

同じく佐賀の調査で辰岡郡、葦岡郡、全国を比べると全国が最も高く、葦岡、辰岡の順位である(表105)

高校の調査したグラフでも辰岡郡の身長は葦岡郡より低く、その差は年令が高くなるに従つて開いてくる。(才1四)

婦人少年局で行った高等学校定時制課程の健康調査によると次の結果となっている。

調査対象としては、各都道府県庁所在地にある高等学校の中、定時制課程をもつ高等学校424校に在学してける生徒を年令別に、「星雨関係がある者」、「雇用関係がなく、訪ねてゐる者」、「初任でない者」の三群に分け、その3分の1に当たる32,073人を採集した。この中で体格の比較のために用いた対象は、有業者のみであつて沢り及がその人数数である。

表A 年令別調査並に受検人員

検査 種別	年 令	15才	16才	17才	18才	19才	20才 以上	合 計
		人	人	人	人	人	人	人
高校生徒	男	22,438	18,810	17,043	5,939	2,041	—	67,271
	女	18,098	15,441	12,768	5,064	394	—	49,761
年少労働者	男	3,618	3,198	4,640	4,048	2,748	4,987	25,340
	女	774	1,307	966	667	324	236	4,276

(註) 高校生徒の人員は、学校衛生統計調査(文部省)で、昭和26年4月に行われた定時身体検査の受検人員を示し、年少労働者の人員は婦人少年局で調査した、定時制課程に学ぶ者の中、職業を有するもののみの人員を示す。

男子では各年令とも年少労働者（定時制課程生徒）主として後向き生（高校生後）より身長が低い。女子は15才から16才までは年少労働者が低い。17才では逆に高校生後のほうが低い。この原因は人員数が比較的に少かつたせいか或は他の要因があるのか不明である。高校生後と年少労働者の差は男女ともに16才、17才が大き。その前後にあたる15才および18才ではその差が小さい。また男子の差より女子の差が小さい。

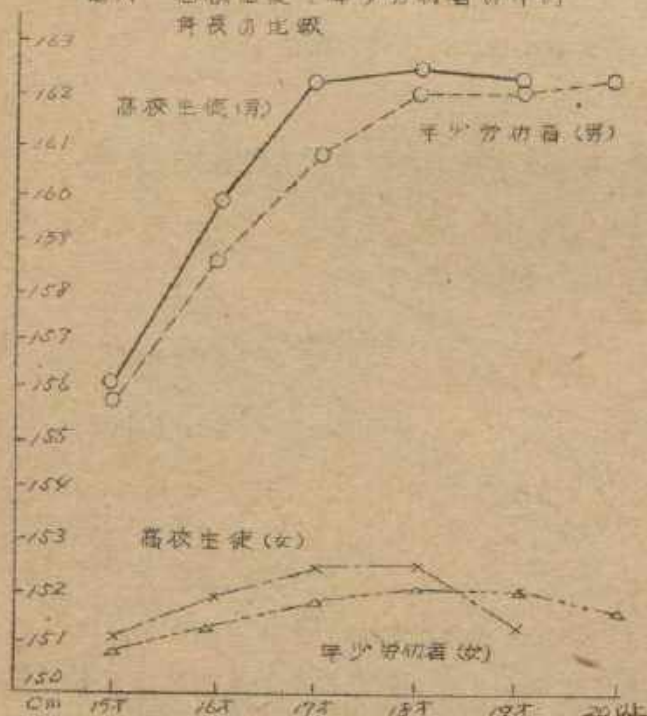
表3 高校生後と年少労働者の平均身長

性別	年令	15才	16才	17才	18才	19才	20才以上
男	高校生後	156.1	159.6	162.2	162.5	162.2	—
	年少労働者	155.8	158.5	160.7	162.0	162.0	162.2
女	高校生後	151.0	151.7	152.5	152.5	151.3	—
	年少労働者	150.7	151.4	151.7	152.7	152.1	151.9

(註) 高校生後は学校衛生統計調査（文部省）

年少労働者は婦人少年局調査

図A 高校生後と年少労働者の平均身長の比較



(註) 高校生後は文部省学校衛生統計調査

年少労働者は婦人少年局調査

(四) 測 量

佐賀の調査で定時制、全日制の15才～20才までの両面を比較すると、各才とも全日制が勝っている。（表106）

次にやはり佐賀の調査で、男女別に定時制と全日制の両面を比べると、この場合は男女とも年令により両者が交互に増加している。（表107）

しかし同じ佐賀の県の調査では、各才とも定時制が専攻部より両面が低い。又専攻部のグラフでも同じ傾向が示

されている。(表108、オ2図)

次に婦人少年局の調査(前述)により、高校生徒と年少労働者の男子の胸囲を比較すると、高校生徒は15才が77.7cmに始まり、16才では80.3cm、17才82.3cm、18才83.1cmと何れも増加しているが、年少労働者は15才で既に高校生徒よりも13cm、低く、76.4cmに始まり、16才78.2cm、17才79.8cm、18才81.0cmと増加している。各年令ごとに出れば、各年令とも年少労働者が劣り、身長より更に両者の差異が目立つている。女子も年少労働者が各才とも劣るが、その差は男子程著しくなく、

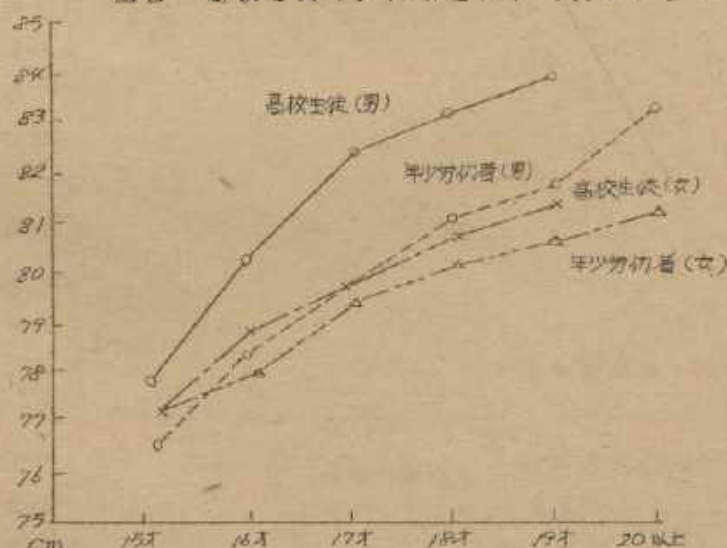
表C 高校生徒及び年少労働者の平均胸囲(CM)

性別	年令	15才	16才	17才	18才	19才	20才以上
男	高校生徒	77.7	80.3	82.3	83.1	82.8	—
	年少労働者	76.4	78.2	79.8	81.0	81.7	83.1
女	高校生徒	77.1	78.8	79.8	80.7	81.3	—
	年少労働者	77.1	78.0	78.4	80.2	80.6	81.2

(註) 高校生徒は文部省学校衛生統計調査

年少労働者は婦人少年局調査

図B 高校生徒年少労働者の平均胸囲の比較



(註) 高校生徒は文部省学校衛生統計調査

年少労働者は婦人少年局調査

3) 坐 高

座高の調査により15才から20才までの定時制と全日制の坐高を比べると各才とも全日制が勝っている。(表127表)

同じく座高の調査で男女別に定時制と全国平均の坐高と比較すると、15才から19才までのうち男女とも16才から18才までは定時制が勝っている(表128)

高校の調査でも夜間と昼間を比較した時、各才とも昼間が勝り前の調査と同じ傾向がみられる。(オウ四)

婦人少年期の調査(前述)では、男子についてみれば、各才とも年少労働者の方が高い。女子の場合も各才とも年少労働者の方が低くなっている。男女共にみられる傾向としては、両方の場合には男女とも大体同じような上昇曲線を描いているのに反し、坐高は身長の場合と同様の傾向で、男子の上昇曲線に近し、女子の曲線は極めて緩やかであり、特に年少労働者の場合は16才、17才よりも曲線が下降している。

表D 高校生生徒及年少労働者の平均坐高 (cm)

性別	年 令	15才	16才	17才	18才	19才	20才以上
男	高校生徒	84.5	86.8	88.3	88.7	88.6	-
	年少労働者	82.8	83.9	85.2	85.9	86.4	86.3
女	高校生徒	83.1	83.7	84.0	84.0	84.2	-
	年少労働者	81.6	81.9	81.9	81.6	81.7	81.7

(註) 高校生徒は文部省学校衛生統計調査

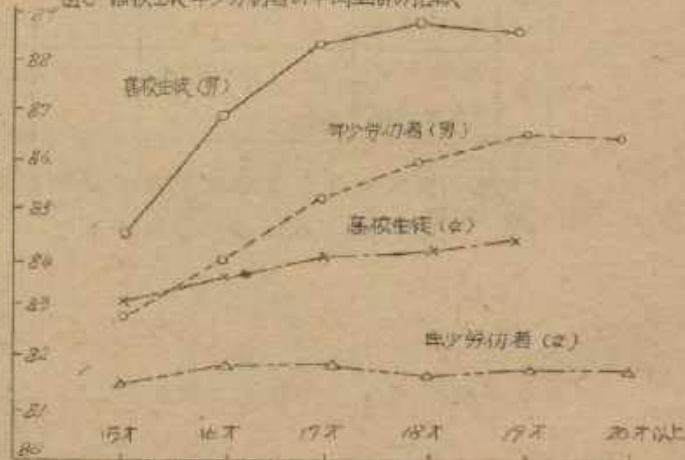
年少労働者は婦人少年期調査

(二) 体 重

座高の調査で定時制と全日制の体重を比較すると、15才から20才までの各才で、19才を除いては全部定時制の体重が小である(表111)

同じく座高の調査で男女別に各才の体重をみると、女子の16才を除いては男女とも全部全日制が勝っている(表112)

図C 高校生生徒年少労働者の平均坐高の比較



(註) 高校生徒は文部省学校衛生統計調査

年少労働者は婦人少年期調査

又夜間部と昼間部の比較では15、16才では夜間部が大であるが、17、18才では昼間部が大となっている。(佐賀) (表113)

島根の調査でも年令が進むにつれ夜間部と昼間部の体重の差は消えて行く傾向を示す。(オ4国)

婦人少年局の調査(前記)では、男子高校生は15才が47.0 kg、16才はそれより3.7 kg、17才27 kg、18才1.1 kg、19才0.5 kgといずれも増加し、19才では55.0 kgに達している。これに対し年少労働者は15才で46.7 kg、16才はそれより2.5 kg、17才2.3 kg、18才1.3 kgと増加し、19才では53.3 kgに達している。各年令毎に比較すると15才では年少労働者が高校生より0.3 kg劣っているが、16才では1.5 kg、17才1.7 kgとその差はますます拡大して18才、19才ではいずれも1.7 kg年少労働者が劣っている。女子についてみると、高校生は15才が45.9 kgで、16才はそれより2.2 kg、17才1.3 kg、18才0.6 kgと増加し、19才で50.3 kgに達している。これに対し年少労働者の場合は、15才45.3 kg、16才はそれより1.1 kg、17才1.3 kg、18才0.4 kgと増加し、19才で48.9 kgに達している。15才では年少労働者は高校生より0.6 kg劣っているに過ぎないが、19才では1.5 kgの差となつてゐる。19才の年少労働者の体重は、高校生の16才の体重に優り、17才に及ばない。これは男女とも同じである。

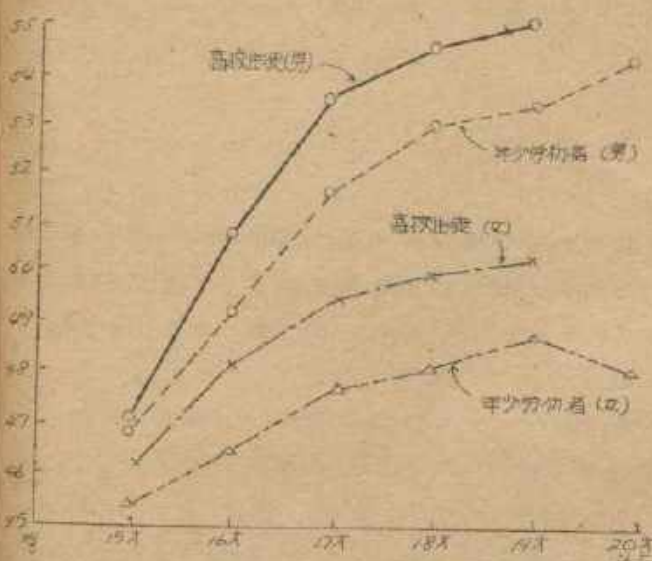
表E 高校生徒及び年少労働者の平均体重(kg)

性別	年令	15才	16才	17才	18才	19才	20才以上
	種別						
男	高校生徒	47.0	50.7	53.4	54.5	55.0	—
	年少労働者	46.7	49.2	51.5	52.8	53.3	54.2
女	高校生徒	45.9	48.1	49.4	50.0	50.3	—
	年少労働者	45.3	46.4	47.7	48.1	48.4	48.1

(注) 高校生徒は文部省学校衛生統計調査

年少労働者は婦人少年局調査

図11 高校生徒、年少労働者の平均体重の比較



(注) 高校生徒は文部省学校衛生統計調査

年少労働者は婦人少年局調査

体格についてはこの他に多くの有益な資料があったので、参考表としてつけ加えた。

(表114、表115、

表116、表117)

2) その他

(1) 栄養摂取量

夜間部と昼間部の栄養摂取量は、夜間の平均が2,979cal、昼間の平均が3,013calで、昼間のほうがカロリー量と多くとっている。又その種類をみると、昼間部は蛋白質と22.7グラムとついでに夜間部より多いが、夜間部は脂肪、炭水化物を多くとっている。これは夜間部の若は労働が激しいので脂肪、炭水化物等を昼間部より多く要求する為か、或は経済的余裕が狭小とつて栄養摂取量が少いのではないかと思われる。(佐賀)(表118)

(2) 健康状態

神奈川の調査で、全日制、定時制、男女別に分けて、現在の健康に自信があるか、ないかを調査した結果によると、男女とも定時制の者は30%余りが「自信なし」と答えている。(表119)

入学後における健康度は、昼間制では約55%が「満足」または「良好」であるが、夜間制は約47%が「満足」および「良好」であつて、低下した者は46.6%、「著しい低下」は45%で半数が健康度の低下を訴えている。

(佐賀)(表120)

同じく佐賀の調査で、起床時の気配から入学後の健康状態をみた資料によると、「ぬるり」者40%、「少しきつい」者17%、「きつい」者11%、

「目が痛い」者 8%、「顔が重い」者 7.2% 等で、大部分の者は起床時の状態が良くないことを示している。そしてこの調査では「何ともない」者は僅か 12% であつた。(表 121)

四 疾 病

(1) 視力の変化

夜間の定時刻に通う生徒は学校における就学時間、又家庭における学習時間、そのほとんどが夜間であるため、視力にも影響があることと認められる。

大分の検査によると視力は 1.2、1.0、1.5 の者が多いが、0.9、0.8、0.2、0.3 等の比較的低い者も相当数みられる。(表 122)

山形県の調査によると 837 人の中 33.5% は「目が悪い」と答えている。その中で 0.6% は生れつき近視であるが、91.7% は入学後に悪くなつたと答えている。(表 123)

次に佐賀の調査により、入学後の視力の状態について夜間と昼間とを比較すると、この調査では近視になつた者は夜間 4.7%、昼間 4.8% で殆ど同じであるが、近視の進んだ者は夜間の 5.7%、昼間の 2.4%、近視では無いが眼の疲れる者は夜間 4.6%、昼間 1.4% となつていて、夜間の者のなか視力の状態が悪くなつていふことが明らかなのである。そして夜間の者で視力の変化なしと答えている者は 44.0% にすぎない。(表 124)

熊本県の調査では主な疾病異備として近視、弱視が非常に多く、特に男子の人数が多い。(表 125)

鳥取県の調査をグラフによつてみると、夜間も、昼間も年令が高くなるにつれて近視の者の比率は高くなるが、夜間の者の増加率は昼間の者より高く、同令 19 才では数倍に増加している。昼間部は 19 才の統計がないので比較出来ないが、過労が原因のことは明らかなのである。(表 126)

熊本では視力の疾患をその種類別に分けているが、近視が最も多く 69.2% を占めている。(表 126)

(2) 内科的疾患

大分の 344 人の生徒に対する病状健康診断の結果によると、要注意が 9 人、要休養、要療養がある 21 人づつ、長又と休学が合計 2 人となつてゐる。(表 127)

長崎の身体検査の結果から結核性疾患の有無をみると、「影響を蒙らうもの」10.0%、「休養を命ぜられたもの」2.9%、「要注意者」4.7% となつてゐる。(表 128)

同じく長野の資料により、既往症の有無をみると（本県の調査による）既往症のある者は21.7% であり、その中結核性のものは17.6%を占めてはいる。（表129、表130）

富山の資料により3144人の生徒の過去の健康状態をみると、風邪が最も多く47.9%を占め、又は胃腸病の13.8%、眼病の13.5%、脚気2.6%、盲腸炎の2.4%等が多い。（表131）

埼玉の健康状態について、富山の2946人の中、疾病にかかっている者444人の状態をみると、風邪24.6%、脚気21.6%、胃腸病18.5%、眼病8.5%等が多くなっている。（表132）

校内における内科的疾患について豊岡と夜間の生徒を比べると、腹痛は豊岡16.2%、夜間25.4%、頭痛は豊岡18.4%、夜間37.7% となつてゐる。そして腹痛、頭痛は豊岡よりも比率が高いが、夜間はこの両者とも豊岡より高率を示してゐる。（佐賀）（表133）

同じく佐賀の調査によつて、病後次第の原因について、夜間と夜間を比べた調査をみると、夜間は腹痛28.4%、下痢21.2%等の比率が高く、風邪、頭痛等は豊岡の比率が高い。そして夜間の生徒は胃腸の疾患が比較的多いように思われる。（表134）

又佐賀の一高校における調査では、入学後患つた病気は頭痛の比率が最も高く、次は腹痛、風邪、眼病等の比率が高くなつてゐる。（オ6回）

そしてこの原因としては、夕食の不規則、睡眠不足、過労等を挙げている。（オ6回）

東京の調査で、学校に入学後健康に障りがあった生徒をみると、胃腸を患へた者39%、視力が悪くなった者35% であり、夜間の定時制高校に通うことによつて、胃腸、視力の疾患にかかる者が多いことが明らかである。（表135）

山形の調査で農場で多い病変、怪我の種類をみると、農業では、胃腸、頭痛、沖き痛、食生活製造業では頭痛、腹痛、木材業では腰痛、切傷、印刷出版業では眼病、結核性疾患、商業では胃痛、風邪、望崎、通信、公益業では眼病、結核性疾患、サービス業では眼病、結核性疾患、公務、会社では胃腸、結核性疾患が多く、各々の職業の種類性にもとづいて病変、怪我が発生してゐる。特に腹痛、胃痛、眼病、結核性疾患等は多くの職業に共通してゐて夜間の定時制生徒のかかり易い病変と考えよう。（表136）

次に結核にかかる年について、定時制高校生後と全日制高校生後とを比較すると、定時制高校生後の結核による差病率 — 前正の婦人少年局調査 — は

142%であり、性別には専業主婦142%、女子143%であるのに対して、全日制高校生徒の進捗による進捗率は「文部省調査」0.71%で、仕方の方には、男子0.68%、女子0.77%となっており、定時制高校生徒の進捗率の方が全体でも、又、性別でも2倍前後の進捗率を示している。(表137、表138)

四 労働と教育との関連に関する意見

(1) 夜学進歩に対する使用者、同僚、家族の理解程度

夜間の高校生が労働と勉学とを両立させるためには、環境の理解と協力が必要ことは言うまでもない。いま定取をもつ生徒を対象として、使用者、同僚、家族の人々の理解と協力をみる。まず、使用者の態度は、熊本、高崎、鳥取、三重、栃木、富山の資料によれば250人平均、使用が非常に理解し、協力的であると回答した者305%、幾分か理解し助ましてくれらる者392%で、約4割の者は、使用者が理解と協力をもつていけると感じている。具体的な協力の仕方としてある使用者調査では、生徒が始業時間に同に合よう帰してけるといふのがあつた。しかし中には、あまりすすぬけぬのが32%あり、又、非常に反対している者も2.4%ある。こうした使用者は、どのような理由から反対するのであろうか。ある個人商店の人は、生徒は生徒を主とし、取組を従としてゐるので、取組の忙しい時は帰ると迎へてゐる。この地にも、いろいろの理由があるであろうが、その原因を究明した。夜間の定時制高校生への支援を一つでも取除くことができるのではあるまいか。そして、このことは、個人商店や兼業企業の場合多く同様となつてゐる。うに思われる。

次に同僚についてみると、富山の資料だけであるので、この結果で進捗は反映であるが、29人の調査では、非常に理解し助ましてくれらる者232%、幾分か理解し助ましてくれらるもの312%で、積極的に理解協力すると感じている者の割合となるが、使用者の場合に比べて少いことはどうしたことであろう。しかも、然理解で、反対している者が使用者の2.4%に対して、同僚では3.8%と多いことも又、興味ある傾向である。家族の場合は、熊本、高崎、鳥取、三重、栃木、富山の資料によれば126人平均、積極的に協力しているのか約4割半を占めてゐることは当然であるとしても、中には進歩に反対しているものも13%の極く少数ではあるが認められた。家族の理解とは結局は貧困に最大原因があるのではなからうか。(表139、表140)

(2) 定時制高校生入学後の変化

子弟が夜間の高校に通うようになつて、有形、無形、かゝるいろいろな影響を

けた結果、どのような変化が見られたか。生徒保護者に対しての負担の増減は、若干の資料によれば、よくなったと見る父兄が45%、よくなりましたし悪くもなった35.2%、悪くなったが4%があり、好ましかこと、あるいは好ましくなり変化としては表141にあげるものであった。(表141)

(3) 習作と学習の両立に対する生徒の意見

岩手、熊本、山口の資料によれば、経済的面で、両立するめづりな何とかがゆつていけると感じている者が約85%程度、やや困難である者10%強、困難でそれすらも苦い者が僅少となつていて、15%強の者は、経済的に不安をいたっている、身体的面で、両立すると回答した者は、約75%程度で、やや困難を感じる者15%、進歩で困難を訴えている者は5%程度で、25%の者の、身体的には困難を訴えている。したかつて経済的不安をいづく者よりも、むしろ身体的に苦難を訴えている者が多りと見えるようである。

さらに、精神的面においては、両立する者75%程度、やや困難を感じる者20%程度、困難を感じる者5%程度となつて23%程度の者が精神的苦痛を訴えている。以上のことから、夜間の高校生が、通学しながら労働する場合に、支障となるのは、身体的におけるものをもつとも大であり、次いで精神的、経済的となつてくる。(表142)。

表29 習字への理由

	島主 中山 協会	岩手 教育 庁	宮 崎 教育 庁	佐 賀 高 校	県 教 育 振 興 会	計	割 合
(8) 経済事情	34	575	61	16	71	657	42.2
勤労事情	158	61	65	11	54	329	17.2
疾病	15	42	9	6	17	89	4.6
自己の怠惰	36	131		7	67	241	12.6
その他の 可	121	185	16	61	65	448	23.4
	414	894	131	101	274	1714	100.0

佐賀高校その他に長欠50人 県教育振興会その他に全日又は別科生22名を含む

表30 家庭の職業

	町	農 業	製造業	商 業	公社員	公務員	官庁工業 (その他)	無 職
三 重	2,703	1,520		735	462	341	210	451
佐 賀	232	50		67	28	31	15	05
山 形	207	555		77		57	94	
栃 木	677	305		134	71	57	112	
島 根	512	274		87	45	26	78	
富 山	2,382	1,123		388	373	10	127	293
高 崎	2,242	1906		230		173	413	
山 口	2,863	5,110	453	531		600	677	392
鹿 児 島	78	78					20	
千 葉	105	105						
計	18,143	11,004	453	2,207	991	1,117	1,808	1,181
割合	100.0	587	2.4	11.7	5.2	5.9	9.6	6.3

表31 両親の有無

	計	両親あり	両親なし	父のみ	母のみ	名
実	4,211	3,022	1,189	207	964	三 重
	1,467	1,534	21	85	227	三 重
	226	153	7	10	58	島根 松江商工
	627	541	7	35	70	栃木県足利高等学校定時制
数	2,788	2,042	133	173	620	熊本県高等学校定時制及通信教育振興会
	201	124	10	9	58	鹿児島工業高校(定)
	242	242	7	15	22	栃木県宇都宮商業高等学校(定)
合 計	10,462	7,630	305	554	1,767	
比 率	100.0	73.0	2.9	5.3	16.8	

表22 住居状況

	自 宅	住 込 舎 等	向 付 せ る 地	計
鳥根江商江	162	30	13	205
若手教育会	3561	142	141	3924
熊本教育振興会	2227	312	134	2673
計	5950	524	328	6802
%	87.5	7.7	4.8	100.0

表23 生徒の収入と家計との関係

	計	生徒の収入に 父母の収入を 加えての もの	生徒の収入に 父母の収入の 一部を加えて いるもの	生徒の収入 に父母の収入 を加えていない もの	生徒の収入 に父母の収入 を加えていない もの	生徒の収入 に父母の収入 を加えていない もの	生徒の収入 に父母の収入 を加えていない もの
熊本教育振興会	5364	400	2621	1730	230	564	959
山口県高等学校定時制 教育振興会	5231	424	2406	1282		425	674
熊本県高等学校定時制 教育振興会	1865		963	714			248
計	12460	824	5,330	3726	230	989	1,281
比率	100.0	6.6	42.8	29.9	1.8	7.9	11.1

表24 起床時刻

項目	五時以前	五時半	六時	六時半	七時	七時半	八時	八時半	九時	計
人数	53	232	734	891	713	232	83	10	8	2956
比率	1.8	7.9	24.8	30.2	24.1	7.8	2.8	0.3	0.3	100.0

鹿山 主事協会

表25 起床時刻

400 ~ 500	21
500 ~ 530	76
530 ~ 600	316
600 ~ 630	325
630 ~ 700	178
700 ~ 730	52
730 ~ 800	32
計	1000

佐賀定時制振興部

表26 結業時刻

	総数	4時 5時	5時 30分	6時	6時 30分	7時	7時 30分	8時	8時 30分	9時	10時	不足	
人数	180 491 2107 2274	1 1	1 1	10 21	 27	2 113	9 225	22 927	22 525	7 86	1 194		大分 上野立馬校 山口 山形中央高校 山形 主事協会
比率	100.0			0.8	1.0	5.9	10.4	44.8	23.3	4.2	7.0		計

表27 結業時刻

	総数	4時 5時	5時 30分	6時	6時 30分	7時	7時 30分	8時	8時 30分	9時	10時	不足	
比率	100.0 100.0 100.2	0.6 0	0.6 0	5.6 5.2	 1.3	2.9 5.4	5.2 10.7	28.9 40.4	28.9 20.9	3.9 4.1	0.6 9.2		大分 上野立馬校 山口 山形中央高校 山形 主事協会

表28-1 解 勤 時 間

	総数	最長	不足	10時 以上	9時前	8時前	7時前 以下	
人数	1674 3062 128 2548 2137 491 10090	129		131 161 20 435 94 24	279 515 39 454 369 46	960 2115 105 1371 1209 212	175 231 14 288 200 207	佐賀 山口 教育振興会 大分 大分上野立馬校 熊本 教育振興会 山形 主事協会 山形 山形中央高校
比率	100.0	13	2.5	8.3	16.9	59.6	11.0	計

表28.2 最長 最低解勤時間

最 高	最 低
13 時間	4 時間 - 3 時間

表39 勞 働 時 間

	總數	取 取	不 定	10時間以上	9時間	8時間	7時間以下		
比 率	100.0	77		7.8	16.7	57.3	18.5	佐賀	教育振興会
	100.0			5.3	16.7	68.9	8.9	山口	大分上野山高校
	100.0			11.2	21.9	57.0	2.9	大分	教育振興会
	100.0			17.2	13.8	53.7	11.3	熊本	主事防会
	100.0		10.6	3.3	17.5	59.2	9.4	岡山	山形中央高校
	100.0		4.9		9.8	43.2	42.1	山形	長崎市立高校
	100.0(50.0)			5.7	12.4	59.2	22.5	長崎	

表40 性別の労働時間

	その他	7時間以上	8時間	性別人員数		
比 率	8	33.0	59.0	男 575名	佐賀	佐賀高校
	2.3	21.2	76.1	女		

表41 職種別労働時間

	最 低	最 高	平均値
公務員	80時間	85	82
市 役 員	70	80	80
工 員	80	85	81
店 員	85	90	87
新 入 員	80	90	81
手 配 員	70	90	82
その他	85	90	80
平均	85	85	81
新聞配達	20	60	35

(注) 新聞配達の労働時間は非常に短いのを特殊なものとして平均から除いた。
長崎市立長崎才=商業学校(1323名)

表42 最高・最低の労働時間

調査人員	最 低	最 高	平均値
198人	2時間	11時間	77時間

佐賀、佐賀県立佐賀商業高校

表43 休憩時間

	總數	30分	45分	50分	60分	60分以上	不 定	無 し
比 率	2107	133	426	201	201	235	211	40
	100.0	6.3	20.2	9.5	9.5	11.1	10.0	1.9

岡山主事防会

表44 休憩時間

	總 數	1時間以内	1時間30分以上	2時間	3時間	不 定
実 数	(調査人数)	262	68	97	23	41
	100.0	53.4	13.8	19.8	4.7	8.3

山形中央高校

表45 終業時刻

	総数	3時前	3時 ～4時	4時 ～5時	5時～ 5時30分	5時30分 ～6時	6時以後	未記入		
人数	161		2	52	42	29	2		栃木	近野高校
比率	9.0 100.0 (27.16%)	0.6	5	32.5	42.2	18.0	1.2		東京	主事会
			5.3	63.0	22.7	3.9	2.2	2.5		

(注) 東京～平均終業時刻 4時40分

表46 終業時刻

	総数	2時	3時	4時	4時 30分	5時	5時 30分	6時	6時 以後	不定		
人数	181	5	2	7	25	130	11	1			大分	大分上野立高校
	2107			362	420	330	170	46	32	247	富山	主事協会
	481		27	91	114	214	6			39	山形	山形中央高校
	157			9		114		6		30	鹿児島	鹿児島工業高校
比率	29.6	5	29	469	559	128.8	157	51	32	316		
	100.0	0.2	1.0	16.0	18.0	43.8	6.4	1.7	6.1	10.8		

表47 終業時刻

	総数	2時	3時	4時	4時 30分	5時	5時 30分	6時	6時 以後	不定		
人数	100.0	28	11	39	13.8	71.7	6.1	4.6			大分	大分上野立高校
	100.0			172	17.7	37.4	6.1	2.2	1.5	11.7	富山	主事協会
	100.0		55	185	23.2	48.7	1.2			2.9	山形	山形中央高校
	100.6			57		22.7		25		12.1	鹿児島	鹿児島工業高校

表48 授業開始時刻

授業時刻	午後 4時	5時	5時 20分	5時 25分	5時 30分	5時 40分	5時 45分	6時	6時 10分	6時 25分	6時 30分	総数
人数	1	1	2	1	7	2	1	7	1	1	1	25
比率	4	4	8	4	28	8	4	28	4	4	4	100

(注) 富山県の民間の民時制高校(私立校、併設校、分校)25校を授業開始時刻別に集計したものである。(富山県主事協会)

表49 授業開始時刻に間に合うかどうか

	総数	充分間に合う	少しは間に合う	丁度間に合う程度	1時間以上遅刻する	2時間以上遅刻する	その他	
実数	286	39	62	110	67		5	橋本 佐野高校
	287	72	61	133	65	5	4	坂本 宇都宮商業高校
	426	111	126	243	132	5	9	計
比率	100.0	17.9	20.1	33.7	21.1	0.8	1.4	

注) 佐野高校の授業開始時刻は午後5時55分である。

出) 佐野高校の場合「充分間に合う」は10分～40分「少しは間に合う」は6分～10分「丁度間に合う程度」は0分～5分「1時間以上遅刻する」は5～20分位の時間をさす。

表50 授業開始時に間に合うかどうか

総数	充分間に合う	少しは間に合う	丁度間に合う程度	1時間以上遅刻する	2時間以上遅刻する	その他	第1入		
1000(27168)	134	194	361	215	33	19	14	東京	全学生会
997	137	219	384	236		17		坂本	佐野高校
1000	210	187	387	190	14	12		坂本	宇都宮商業高校

注) 佐野高校の授業開始時刻は午後5時55分である。

出) 佐野高校の場合「充分間に合う」は10分～20分「少しは間に合う」は6分～10分「丁度間に合う程度」は0分～5分「1時間以上遅刻する」は5分～20分位の時間をさす。

表51 授業終了時刻

授業時刻	午後 2時15分	2時 10分	2時 20分	2時 25分	2時 30分	2時 40分	2時 45分	2時 55分	3時	3時 10分	3時 30分	総数
校数	1	1	1	2	3	3	1	1	2	1	2	25
比率	4	4	4	8	20	12	4	4	20	4	8	100

注) 富山県の夜間の定時制高校(兼立校、併設校、分校)25校を授業終了別に集計したものである。(富山県主事協会)

表52 帰宅時刻

9.30	27
9.30 ~ 10.00	36
10.00 ~ 10.30	25
10.30 ~ 11.00	8
11.00 ~ 11.30	2
11.30 ~ 12.00	0
12.00 ~ 12.30	0
計	100

佐賀 定時制夜間部

表53 帰宅時間

	大崎町 本校に 帰る時 刻	大崎町 30分ほど に帰る時 刻	大崎町 30分ほど に帰る時 刻	大崎町 30分ほど に帰る時 刻	大崎町 30分ほど に帰る時 刻	計
人員数	1472	1308	697	237	88	4040
割合	36.4	32.3	17.3	5.9	2.1	100.0

山口 教育振興会

表54 夕食はいつとるか (夜間)

計	登校前食事	帰宅後食事	学校で食事	不 定	所 名
218	58	139	4	15	足利高校
2297	808	1458	34		熊本県教育振興会(定時夜)
142	28	104	10		足尾高校(栃木)
4040	1052	2711	27		山口教育振興会
200	44	156			長崎市立商業高校
2271	1986	5165	125	19	計
100.0	27.6	70.9	1.7	0.2	比 率

表55 夕食はいつとるか (夜間)

	計	登校前食事	帰宅後食事	学校で食事	不 定	所 名
比	100.0	15.0	85.0			長崎市立高校
	100.0	26.2	71.9	1.9		山口教育振興会
比	100.0	27.9	68.8	1.3		熊本県教育振興会(定時夜)
	100.0	26.8	64.4	1.9	0.7	足利高校(栃木)

表56 食事の状況(時刻)

計	起床前に自宅で 夕食をとる	弁当を 食べる	外食を する	起床後自宅で 夕食をとる	
2910	816	195	28	1871	佐賀 主事協会
306	102		11	393	鳥 取 教育振興会(定時制夜間部)
3056	958	195	39	2264	計
100.0	27.8	5.6	1.1	65.5	

表57 食事の状況（時刻）

計	朝食前に 食事をとる	弁当を 食べる	外食を する	終業後自宅で 夕食をとる		
100.0	28.0	6.7	1.0	64.3	富山県	主事協会
100.0	26.0		2.0	72.0	鳥取県	教育委員会（交通記者）

表58 夕食時刻

	登校前	下校後
男子	19	81
女子	25	75

長崎 長崎女子商業高校

表59 夕食時刻と就業状況

①夕食を終って 登校するもの	②学校で弁当を つかうもの	③帰宅後食事 するもの	食後直ちに 水につくもの
28人 17.6%	10 7.0	104 72.7	24 5.5

注) ①…3時30分～4時30分 ②…6時～7時 ③…7時～8時
栃木足尾高校

表61 夕食時刻

時刻	比率
午後 4:00 — 4:30	4.5
4:30 — 5:00	5.6
5:00 — 5:30	9.4
5:30 — 6:00	3.3
6:00 — 7:00	5.7
7:00 — 7:30	9.2
7:30 — 10:00	26.0
10:00 — 11:00	36.0
11:00 —	0.1
計	100.0

佐賀

表60 夕食時刻

時刻	人数	比率
7時 5:30 起	57	12.7
9:30	20	6.7
10:00	142	44.1
10:30	68	21.2
11:00	30	9.3
11:30	9	0.9
12:00	2	0.6
計	322	100.0

大分 上野丘高校

表62 学校外における学習時間（調査時間）

	総数	時間 生し	30分 以内	1時間 以内	2時間 以内	2時間 以上	不足	不明			
実	537	36	121	157	116	42	65		山形	中央高校	調査の 色の紙
	3956	1422	294	955	134	51			富山	主事協会	
	343		164	123	39	6		11	栃木	宇都宮商業高校	
	119	17	38	44	32	4			栃木	足利高校	
	4040	872	737	1197	876	360			山口	教育庁	
数	2312	899	461	598	601	159			熊本	教育振興会	
	857	134	252	222	135	110			岩手	教育委員会	
	192		67	69	39	17			鹿児島	鹿児島工業高校	平均 75分
	1530		733	523	235	39			佐賀		
	1226	263	1260	1437	1093	583			岐阜		
比率	100.0	22.8	25.7	26.0	17.7	7.0	0.3	0.1	計		

表63 学校外における学習時間（学習時間）比率

	総数	時間なし	30分以下	1時間以下	2時間以下	2時間以上	不明	不明		
比率	100.0	6.7	22.5	29.3	21.6	9.8	12.1		山形	中央新校
	100.0	48.1	30.2	13.4	4.5	1.8			宮山	主事協会
	100.0		47.8	25.9	11.4	1.9		22	物木	宇都宮商校
	100.0	9.0	44.6	25.4	16.9	2.1			物木	足利高校
	100.0	21.6	13.2	29.6	29.7	8.9			山口	教育庁
	99.9	23.1	16.9	22.0	22.1	5.8			館本	教育振興会
	99.9	15.6	29.4	25.9	16.2	12.7			宮崎	教育委員会
	100.0		45.4	22.2	14.9	2.1			鹿島	鹿島工業商校
	100.0		49.9	24.2	15.4	2.5			佐賀	
	108.6	16.5	24.1	24.5	20.7	20.8			岐阜	
	100.0(50)	6.9	15.8	41.5	28.2	9.6			長崎	長崎市立高校
	100.0	11.7	20.3	28.9	24.1	5.0			島根	旗田商校
	99.6(128)		49.4	27.3	16.4	3.5			長崎	長崎才二商業高校
	100.0		32.0	46.7	19.5	2.1				

表64 学習の有無

	総数	しない	している	算定入		
計(2796人)	100.0	24.4	77.6	2.9	東京	主事会
男(2743人)	100.0	22.0	76.2	1.9		
女(1037人)	100.0	16.1	81.5	2.4		

表65 いつ勉強するか

	昼間家で行う	昼間勤務先で行う	帰宅後行う		
171	49	17	105	物木	足利高校
100.0	28.7	9.9	61.4		

表66 自由時間

	人数	比率
1 時間	100	31.1
2	121	37.6
3	54	16.8
4	12	3.6
5	12	3.7
6	9	2.9
7	5	1.5
8	3	0.9
計	322	100.0

大分 上野立高校

表67 就床時刻

計	7時	10時	11時	11時30分	12時	1時	1時30分	不定	異名
162	7	27	36	46	21	4			栃木足尾高枝
537		173	116	170	29	37		4	山形中央高枝
292		10	33	116	88	67	13	7	大分上野高枝
2956	76	400	739	1055	843	185	34	12	富山主事高枝
3927	83	610	924	1397	817	272	87	27	実数
	2.1	15.5	23.5	35.3	19.7	7.5	1.2	0.7	比率

表68 就床時刻

計	7時	10時	11時	11時30分	12時	1時	1時30分	不定	異名
100.0	8.9	19.0	28.4	32.4	14.8	2.8		0.7	栃木足尾高枝
100.0		32.3	21.6	31.6	5.4	6.9	1.5	0.7	山形中央高枝
100.0		2.4	11.3	39.7	18.1	22.9	2.5	0.7	大分上野高枝
100.0	2.6	13.5	24.9	35.7	15.0	6.3	1.2	0.4	富山主事高枝

表69 就寝時刻

	実数	比率
7時 前	31	8.0
10時30分 前	105	30.5
11時 前	100	29.2
11時30分 前	61	17.9
12時 前	29	8.5
12時 後	17	5.0
計	343	100.0

表70 就寝時刻

時刻	比率
21時～22時	2.4
22時～23時	32.4
23時～24時	56.0
24時～1時	11.2
計	100.0

住実 住実高枝

栃木足尾高枝

表72 就寝時刻百分率

	男	女
7時～10時	6.0	4.5
10時～11時	14.7	13.8
11時～11時30分	41.0	40.2
11時30分～12時	29.4	32.3
12時～1時	5.9	6.1
1時～2時	3.0	3.1

長崎 長崎才二商業高枝

	男	女	計
7時	5.0	3.0	4.5
10～10時30分	16.8	11.0	15.3
10時30分～11時	29.8	26.9	28.0
11～11時30分	26.6	32.3	29.1
11時30分～12時	15.6	20.6	19.0
12時以後	5.8	6.0	5.9
算入	0.4	0.2	0.4
計	100.0	100.0	100.0
比率	27.8%	10.2%	27.8%

東京 主事会

表73 就寝時刻(比率)

			夜間	昼間
9.30	~	10.00	6.5	48.5
10.00	~	10.30	13.0	26.8
10.30	~	11.00	30.2	17.4
11.00	~	11.30	29.0	3.7
11.30	~	12.00	15.9	2.9
12.00	~	12.30	4.3	0.5
12.30	~	1.00	1.1	0.2
計				

位置 定時刻

表74 睡眠時間

施設	4時前	5時前	6時前	7時前	8時前	9時前	不定	不明	施設名
322	2	14	65	140	89	12			大分上野丘高校
527		7	44	193	206	81	10		山形中央高校
343			27	292	157	60		7	栃木宇都宮商業高校
1202	2	23	136	425	446	153	10	7	計
1000	0.2	1.9	11.3	35.4	37.1	12.7	0.8	0.6	比率

表75 睡眠時間

施設	4時前	5時前	6時前	7時前	8時前	9時前	施設名
92.2	0.2	3.9	12.2	45.0	29.5	8.9	長崎市立高校
100.0		1.5	10.8	39.1	59.7	8.9	島根浜田高校
100.0		1.1	7.5	30.9	92.2	18.5	山口教育振興会
100.3		3.8	8.9	47.3	29.4	12.7	栃木栃木高校
100.0		2.7	22.0	42.0	25.0	8.3	佐賀佐賀高校
100.0 (不明)		1.7	8.2	35.9	37.2	15.1	山形中央高校
100.0	66	4.4	24.2	43.5	27.6	3.7	大分上野丘高校
100.0 (不明)	20		7.9	26.9	45.9	18.5	栃木宇都宮商業高校

表76 睡眠時間

時間	6時前	6.30	7.00	7.30	8.00	8.30	9.00	計
人数	4	25	38	27	27	10	2	143
百分比	2.8	17.5	26.6	25.9	18.9	7.0	1.4	100.0

注) 平均睡眠時間7時前20分 栃木 定尾高校

表77 睡眠時間

施設	最短	最長	平均	調査人員
夜間部	4時前	7時前	6.7時	19人
昼間部	4	11	8.3	20.5

佐賀商業高校

表78 睡眠時間

時間	男	女
5~6	2.9	5.0
6~7	42.3	35.0
7~8	48.6	41.4
8~9	4.2	15.3
9~		2.3

長崎 長崎第二商業高校

表79 睡眠時間百分比

時 間	男	女	計	
6時前未満	2.7	12.2	14.6	
6時前以上7時前未満	35.7	32.3	37.5	
7 ~ 8	41.6	37.1	40.4	
8時前以上	10.7	6.5	7.5	
無 記 入	2.3	1.9	2.1	
計	比 率	100.0	100.0	
	人 数	27283	10378	37661

東京 主事会

表 80 睡 眠 時 間

		個 間		全 間	
		男	女	男	女
実数	5 時間未満			57	5
	5 ~ 6 時間	77	17	350	159
	6 ~ 7 時	148	42	734	117
	7 ~ 8 時	176	62	878	82
	8 時間以上	56	13	192	20
	計	457	134	2,416	383
比率	5 時間未満			2.4	1.3
	5 ~ 6 時間	16.8	12.7	19.5	41.6
	6 ~ 7 時	32.8	31.3	30.7	30.5
	7 ~ 8 時	38.5	46.3	36.4	21.4
	8 時間以上	12.3	9.7	8.0	5.2
	計	100.0	100.0	100.0	100.0

熊本 教育委員会 (定時制)

表 81 有取着の睡眠時間

時間	4-5	5-6	6-7	7-8	8-9	9-10	10時間	計
実数		6	90	57	115	17		229
比率	8	15	12.2	68.5	21.47	11.49	2.97	92.74
比率	0.1	0.8	2.6	17.5	23.3	50.2	7.4	100.0

広島 教育委員会

表 82 毎日の睡眠時間(夜間)

	実数	比率
10時間	1	0.9
9 時	7	6.4
8 時	22	29.7
7.5 時	25	28.8
7 時	21	19.1
6.5 時	15	9.2
6 時	14	5.1
5.5 時	4	2.0
5 時	1	0.9
計	110	98

熊本県 正利南校

表 83 労働日の性別平均生活時間比率

諸職業に働く年少者の全調査結果
(邦人少年)

区 分	総 計	工場における生活時間										小計	計
		小計	作業時間	労働時間	休息時間	食事時間	運動時間	通勤時間	その他不明	その他			
男 子	100%	62.07	0.96	23.21	6.13	3.24	1.58	0.67	0.83	0.25	59.23	37.88	
女 子	100%	32.17	-	29.51	-	-	-	-	7.29	1.87	61.86	45.23	

工場外における生活時間

生理的・再生活の時間										社会的・文化的時間									
食事	睡眠	入浴	休息	衛生	睡眠	その他	計	進学	習業	運動	娯楽	その他	計	進学	習業	運動	娯楽	その他	計
2.32	1.57	0.38	1.96	0.05	32.08	0.21	16.89	0.03	16.21	1.33	3.84	0.25	6.71	1.39	1.39	1.39	1.39	1.39	1.39
6.25	1.58	-	2.12	-	35.42	-	15.29	-	6.96	-	5.54	-	3.79	2.71	2.71	2.71	2.71	2.71	2.71

表 84 定時制生徒の時間構成

区 分	総 計	収 入 生 活					主 理 生 活				
		小計	睡眠	食事	休息	通学	小計	睡眠	食事	通学	その他
男 子	100%	37.6	23.7	2.1	2.0	2.8	38.2	21.0	3.2	1.7	2.8
女 子	100%	35.5	24.8	2.1	4.2	2.4	39.1	30.0	3.3	2.7	4.0

家 事 生 活		社 会 的 文 化 的 生 活										
小計	睡眠	食事	休息	読書	運動	娯楽	スポーツ	読書	通学	習字	その他	
0.3	0	0.3	29.6	0.1	0	1.7	1.7	1.1	2.8	4.2	11.5	0.5
0.8	0.4	0.8	24.4	0.5	0.3	1.6	2.1	0	2.6	4.2	11.7	1.2

神奈川 川崎高校

表 85 学習に対する支障の有無

他 数	支障あり	支障なし	通 名
実 数	221	2,261	1,950
比	20.1	80.5	1,189
数	2,282	1,334	1,423
計	960	4,445	4,561
比	18.4	89.3	89.7

表 86 学習に対する支障の有無

他 数	支障あり	支障なし	通 名
比	100.0	53.7	46.3
数	100.0	41.8	58.2
比	100.0	48.8	51.2
数	100.0	48.0	52.0

表 87 勤務による疲労と学習について

	総 数	支障あり	支障なし	人数
夜間勤務	100.0	52.69	46.31	221人
昼間勤務	100.0	22.62	77.37	1,523人

三重

表 88 労働と勉学の生活日として特に疲労する日

	労働日	勉学日	疲労する日	人数
実数	男子 98	172	13	296
	女子 31	23	9	118
比率	男子 93.0	58.1	4.4	99.9
	女子 26.2	61.8	2.6	99.8

神奈川 川崎高校

表 89 疲労感

	島根県立川崎高校	山口県立川崎高校
非常に疲れる	11.0	10.8
可成り疲れる	38.0	26.2
少し疲れる	32.0	52.2
ほとんど疲れない	12.8	4.1
元来一杯である	6.2	2.7
計	100.0	100.0

表 90

(通学)に疲労を感じるか

(注) 調査は昼間校では家事及び家事労働者について、夜間校では勤務者について行ったものである。

計	3 歳以下	3 歳以上	10 歳以上	入 数	独 立	共 同	同 居	同 居	同 居	同 居
男 子	九 一	三 二	九 九	入 数	独 立	共 同	同 居	同 居	同 居	同 居
女 子	八 三	二 七	二 〇	入 数	独 立	共 同	同 居	同 居	同 居	同 居
男 子	一 〇	二 〇	二 〇	入 数	独 立	共 同	同 居	同 居	同 居	同 居
女 子	一 〇	二 〇	二 〇	入 数	独 立	共 同	同 居	同 居	同 居	同 居
男 子	一 〇	二 〇	二 〇	入 数	独 立	共 同	同 居	同 居	同 居	同 居
女 子	一 〇	二 〇	二 〇	入 数	独 立	共 同	同 居	同 居	同 居	同 居
男 子	一 〇	二 〇	二 〇	入 数	独 立	共 同	同 居	同 居	同 居	同 居
女 子	一 〇	二 〇	二 〇	入 数	独 立	共 同	同 居	同 居	同 居	同 居
男 子	一 〇	二 〇	二 〇	入 数	独 立	共 同	同 居	同 居	同 居	同 居
女 子	一 〇	二 〇	二 〇	入 数	独 立	共 同	同 居	同 居	同 居	同 居

表 97 取 扱 で の 疲 勞

取 種		農 業	食 品 製 造 業	木 材 業	印 刷 出 版 業	金 属 機 械 業	商 業	運 輸 通 信 公 益 業	サ ー ビ ス 業	公 務 会 社	計	比 率
項 目												
一日中職場で働いて疲勞を感じますか。	感じる	7	3	2	1	10	3	1	2	7	26	
	感じる	50	2	26	7	20	15	1	4	29	154	
	感じる	2	1	2	3	3	0	2	1	0	14	10.0
	感じる	27	2	11	2	7	5	0	0	4	58	24
	感じる	6	1	11	2	7	3	1	1	10	42	17.4
	感じる	2	1	3	2	5	1	1	1	11	27	11.2
	感じる	3	1	4	2	2	1	1	2	6	22	9.1
	感じる	7	0	4	6	4	7	0	2	3	33	13.7
	感じる	4	1	6	1	3	1	0	1	2	19	7.9
	感じる	11	0	2	1	1	1	0	0	5	21	8.7
皆 天氏	感じる	0	0	1	2	1	0	0	0	5	7	2.7
	感じる	2	0	3	0	1	0	0	0	0	6	2.5
	感じる	2	0	1	0	1	0	0	0	0	4	1.7

山陰中央商務

表 9.2 疲 勞 感

	計	大	中	小	
實數	343	46	120	117	物木屋千嶋名島葉市川
比率	100	13.4	52.5	34.1	

表 7.3 起床時の疲労感

部 門	係 員	被 検 査 者	被 検 査 者	被 検 査 者
代 理 部	8%	34%	58%	198人
査 査 部	1%	12%	8%	205人

佐實 佐實 商業高女

表 94 瘧 勞 瘵

	大	中	小	最	名
登校時	5.0	58.6	30.7	55.9	55.9

表 95 登床時の疲労感

雪崩	暴風雨	地震	火災	何もない	調査人員
夜間部	22%	59%	19%	19%	
昼間部	3%	29%	63%	30%	

促質 促質商業商社

表96 登杖時下接踵の疲勞感

		勤 務 者		雇 用 者	
		夜 間	昼 間	夜 間	昼 間
登 録 時	疲 勞 度 大	12.0 ⁹	4.6 ⁸	1.8 ⁶	2.7 ⁷
の 実 感	中	53.0	35.0	27.6	32.0
	小	19.0	37.0	34.4	37.5
	疲 勞 度 左	16.0	23.0	26.2	32.8
下 班 時	疲 勞 度 大	24.0	21.0	5.0	11.0
の 実 感	中	57.0	40.0	35.0	41.0
	小	9.0	24.0	42.0	28.0
	疲 勞 度 左	10.0	15.0	14.0	20.0

性實

表 97 学校で疲労と感に始めた時期

	計	一 時 限 の 途 中 か ら	二 時 限 の 途 中 か ら	三 時 限 の 途 中 か ら	四 時 限 の 途 中 か ら	五 時 限 以 後	確 じ な い
実数	4040	454	893	1201	763	26	603
比率	100.0	11.2	22.2	32.2	18.9	0.6	14.9

山口県教育庁

表 98 生徒の自覚した1日の疲労感

疲 勞 比 率	覚 醒 時			取 場			就 寝 時		
	大	中	小	大	中	小			
比 率	25.6	59.0	15.4	30.8	58.0	11.2	26.9	58.0	17.1

長崎市立高校

表 99 一日で最も疲労する時刻

時刻	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22
比 率	—	—	2.7	2.2	3.8	10.6	15.2	1.6	3.3	2.7	8.9	10.6	2.1	11.0

栃木 栃木高校足利分校

表 100 一年で最も苦痛を感じる時期

	計	梅 雨 期	降 雨 中	寒 中	晴 暑	暖 かい
実数	202	316	321	1025	251	5908
比率	100.0	90	32	11.5	10.5	68.4

山口県教育庁

表 101 起きたときの状態

	生 徒 数				比 率			
	男 子		女 子		男 子		女 子	
	定時制	全日制	定時制	全日制	定時制	全日制	定時制	全日制
支障なく起きる	26	2	12	4	2.9	1.4	10.2	2.5
支障なく起きるが少し疲れる	15.5	12.2	6.6	7.3	5.5	14.3	58.8	79.3
支障なく起きるがかなり疲れる	27	17	26	5	27.6	11.9	22.2	4.9
起きるのに苦痛を覚える	20	2	9	1	7.2	1.4	6.8	0.9
その他	1	—	5	—	0.2	—	0.2	—
計	279	143	117	103	100.0	100.0	100.0	100.0

神奈川県 川崎高校

表 102 授業中の状態

	生徒数	比率
非常に面白い	25	4.7
面白い	132	24.6
まあまあ面白い	309	57.5
面白い	71	12.2
計	537	100.0

山形中央高校
(産別もあり)

表 103 睡眠状態

	生 徒 数				割合			
	男 子		女 子		男 子		女 子	
	定時制	全日制	定時制	全日制	定時制	全日制	定時制	全日制
熟 睡 する	220	124	75	81	80.2	86.7	66.3	78.6
うつろいながら寝る	17	2	9	8	6.2	5.6	8.0	2.9
夢をよくみる	22	5	20	14	10.2	3.5	14.7	13.6
寝汗をかく	8	6	7	3	2.9	4.2	6.2	2.9
その他	1	—	2	1	0.2	—	1.8	1.0
計	278	142	113	103	100.0	100.0	100.0	100.0

神奈川県 川崎高校

表 104 1. 身長 (平均)

性 別	男							女						
	15	16	17	18	19	20	21以上	15	16	17	18	19	20	21以上
年 令	15.7	15.7	16.5	16.9	16.6	16.3	16.6	15.7	15.7	16.5	16.9	16.6	16.3	16.6
身長	158.5	161.4	162.7	165.1	166.8	—	—	151.5	152.1	152.7	152.7	—	—	—
体重	158.5	161.2	162.3	162.9	—	—	—	158.9	152.2	152.6	152.5	—	—	—

佐賀 佐賀高校

表105 身長

年令	性別	女商部	女商部	全國平均
15		154.5	155.2	155.6
16		156.2	158.7	157.3
17		160.5	162.2	161.3
18		162.3	163.9	163.1

佐賀 佐賀商業高校

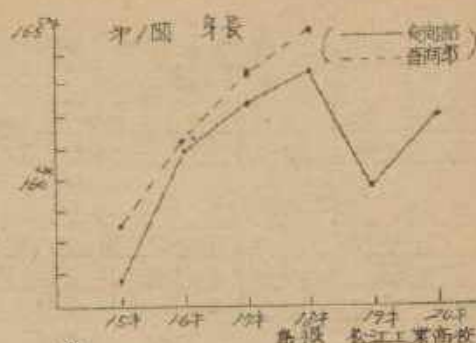


表106 生育状況

項目	15才	16才	17才	18才	19才	20才以上
全 国	77.3	80.1	82.2	82.9	82.3	-
佐賀県	79.7	80.7	82.6	83.6	83.8	84.6
定時制	73.0	81.2	83.4	83.3	84.4	84.5
全日制	89.2	82.0	85.4	86.2	85.2	-

佐賀工業高校

表107 胸 囲 (平均)

性別	男	女
年 令	15 16 17 18 19 20 21才	15 16 17 18 19 20 21才
全 国	77.2 77.5 82.3 84.3 85.6 87.8 89.2	75.6 78.9 79.4 80.9 80.8 82.2 -
佐賀県	82.5 81.0 82.5 83.3 83.2 - -	76.2 77.4 78.4 78.9 - -
定時制	79.5 79.8 81.1 82.5 82.0 81.0 -	72.0 77.1 78.8 78.7 - -

佐賀 佐賀高校

表108 胸 囲

年令	性別	女商部	女商部	全国平均
15		77.6	78.5	76.7
16		77.3	80.9	77.5
17		82.2	83.9	81.5
18		82.5	86.5	-

佐賀商業高校

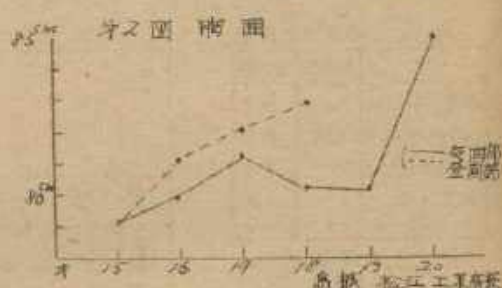


表109 生育状況

項目	15才	16才	17才	18才	19才	20才以上
全 国	84.8	87.0	88.4	88.4	88.5	-
佐賀県	84.2	86.8	88.4	88.7	88.3	-
定時制	84.2	86.8	88.1	87.0	88.6	88.4
全日制	85.4	87.8	89.4	90.0	90.8	87.0

佐賀 佐賀工業高校

表110 生 高 (平均)

性別	男	女
年 令	15 16 17 18 19 20 21才	15 16 17 18 19 20 21才
全 国	84.7 85.7 86.3 88.3 88.6 87.3 88.5	83.7 86.2 88.1 88.5 88.1 88.3 -
佐賀県	84.7 87.7 88.9 87.6 - - -	83.5 83.8 83.9 84.1 - -

佐賀 佐賀高校

第3回 体 高

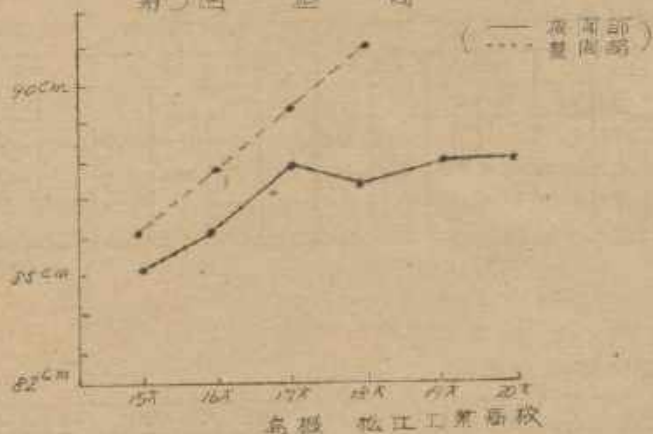


表111 体 育 状 况

項目	15才	16才	17才	18才	19才	20才以上	備 考
全 国 体 育 検 定	47.4	51.0	53.6	55.4	58.9	—	22年平均
佐賀県 体 育 検 定	46.7	50.7	53.5	55.1	58.5	—	—
佐賀工業高校 体 育 検 定	45.7	49.4	53.1	50.8	54.1	52.4	21年平均
全 国 平 均	48.3	52.1	54.1	56.6	59.8	58.5	—

佐賀 佐賀工業高校

表112 体 重 (平均)

性別	男							女						
年 令	15	16	17	18	19	20	21以上	15	16	17	18	19	20	21以上
本校定時	46.7	50.4	51.3	52.4	53.1	55.4	—	45.1	47.8	48.9	49.3	49.3	49.0	—
本校全日	48.4	51.4	53.7	55.8	57.5	—	—	45.4	47.9	49.1	49.6	—	—	—
全国平均	48.1	51.2	52.7	53.5	—	—	—	46.3	47.9	49.3	49.0	—	—	—

佐賀 佐賀工業高校

表113 体 重

年 令	佐賀県	(男) 佐賀工業高校	(女) 全国平均
15	47.9 ⁷⁹	46.2 ⁷⁹	46.2 ⁷⁹
16	50.6	50.3	49.9
17	52.6	53.2	50.6
18	55.3	55.5	—

佐賀 佐賀工業高校

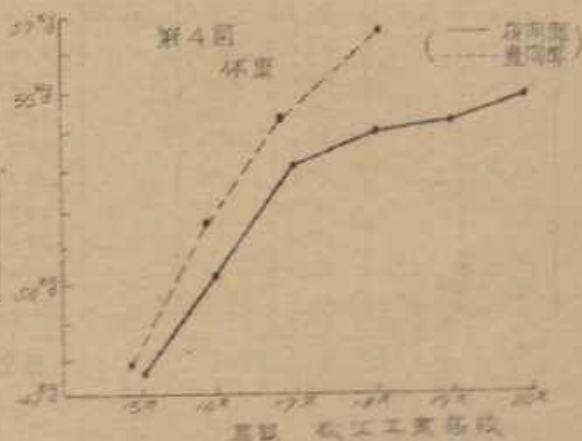


表 114 体 格

		年 令 別													
		15才		16才		17才		18才		19才		20才		21才以上	
		男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
胸 背 状 况	身長	152.0	146.3	151.4	147.4	155.2	153.6	160.9	153.4	159.5	157.6	164.1	162.8	161.6	
	肩 幅	41.7	40.5	42.9	42.6	42.4	42.7	53.1	50.2	52.4	47.4	53.4	56.4	52.6	
	胸 囲	75.5	74.7	78.0	75.2	84.4	77.5	83.4	80.4	83.5	79.4	84.6	85.0	88.3	
	体 重	42.3	40.4	46.0	40.3	56.6	43.3	47.6	44.1	49.0	42.5	52.0	52.3	48.1	59.5

単位

表 115 夜間部体位平均

年 令	15	16	17	18	19	20 以上
変換数	151	109	81	40	14	30
身長平均	156.7	161.8	162.3	163.8	159.4	162.7
体重	47.5	50.3	53.5	54.6	54.2	55.2
胸囲	77.2	77.8	81.3	84.5	80.2	85.0
体高	85.2	86.1	88.0	87.5	88.0	88.4

島根 松江工業高校

表 116 体 位 比 較 (県は昭和27年度
全口は 昭和26年度)

胸 囲			体 重			身 長			換 算 人 員	年 令
全 口	県	本 校	全 口	県	本 校	全 口	県	本 校		
cm	cm	cm	cm	cm	cm	cm	cm	cm	人	年
77.7	77.1	78.1	47.0	45.3	45.6	156.1	154.5	154.2	42	15 ⁺
80.3	77.4	78.4	50.7	48.3	48.7	159.8	157.8	155.3	58	16
82.3	82.0	82.1	53.4	52.2	51.6	162.2	160.5	157.4	43	17
83.1	82.7	82.6	54.5	53.5	52.6	162.5	161.3	159.1	13	18
83.8	83.1	83.2	55.0	54.5	52.9	162.2	161.9	159.3	16	19
84.1		82.8	56.5		50.4	160.9		160.0	7	20
85.8		86.0	57.1		53.8	162.6		158.3	2	21
85.9		86.0	57.2		52.0	162.1		158.3	3	22
84.2		83.5	57.9		62.2	163.7		161.8	1	23
85.8		89.5	57.4		59.1	162.5		162.7	2	24
85.3		86.5	61.3		54.4	164.5		162.1	2	25
		80.0			45.4			156.7	1	26
		86.5			56.4			165.5	2	27
		86.5			51.6			150.8	1	28

鹿児島 鹿児島工業高等学校 (定)

表117 定時制生徒の発育統計

区 分		15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26
身長	男	157.2	157.9	157.7	161.1	161.3	171.0	169.0	163.0	163.3	162.0	162.2	161.3
	女	157.8	157.4	158.6	162.8	162.8	163.3	162.0	162.0	160.7	161.6	162.3	161.1
	男	156.0	158.6	160.5	163.0	162.8	162.7	162.0	159.3	161.7	162.1	166.5	161.0
	女	161.2	162.8	162.1	163.1	162.8	163.3	162.0	162.0	161.7	162.1	166.5	161.0
体重	男	46.2	48.8	52.1	53.1	52.8	54.3	53.2	52.2	52.2	54.9	57.2	54.8
	女	43.0	45.0	48.2	53.7	54.8	52.6	50.3	51.5	53.0	56.3	56.6	59.0
	男	44.7	48.1	52.7	53.5	55.1	51.0	49.9	50.3	51.4	56.4	56.3	59.0
	女	47.3	48.6	51.2	52.3	53.2	54.0	54.5	54.0	54.7	55.0	59.0	55.0
胸囲	男	77.3	78.6	81.2	82.3	83.2	84.0	84.5	84.0	84.7	85.0	89.0	85.0
	女	73.0	75.0	81.8	82.8	83.5	83.3	82.2	82.5	84.1	84.0	86.5	85.7
	男	77.1	80.2	79.5	82.9	85.7	85.1	84.7	82.8	83.1	84.3	86.0	81.0
	女	73.7	75.7	80.7	87.6	88.6	87.2	88.8	84.1	84.2	84.7	85.7	84.8
腕囲	男	33.8	36.3	37.3	38.1	37.0	38.7	37.0	38.6	37.8	37.7	38.7	38.7
	女	33.6	36.1	38.5	37.9	37.6	38.6	38.8	37.8	37.7	37.7	37.8	37.8
	男	33.6	36.1	38.5	37.9	37.6	38.6	38.8	37.8	37.7	37.7	37.8	37.8
	女	33.6	36.1	38.5	37.9	37.6	38.6	38.8	37.8	37.7	37.7	37.8	37.8
検査人員		15	15	2	10	15	15	5	8	7	8	4	1

栃木 足尾商高等学校

表118 栄養摂取量

区 分		摂取部	摂取部
最 大	低	2,146 Cal	2,072 Cal
	高	2,377	2,434
	同	2,377	2,413
標準	安	443.8	707.8
	脂	24.7	22.1
	糖	121.4	155.0

佐賀 佐賀商業学校

表119 健康に就いて自信の有無

	男 子				女 子			
	定時制		全日制		定時制		全日制	
	%	人員	%	人員	%	人員	%	人員
自信あり	65.0	192	76.3	109	63.5	75	76.0	79
自信なし	31.0	92	22.7	34	35.7	42	24.0	25
無記入	4.0	12	0	0	0.8	1	0	0
計	100.0	296	100.0	143	100.0	118	100.0	103

神奈川 川崎高等学校

表120 入学後における健康度

	高 度	良 好	低 下	甚 低 下
夜、同 間	72	42.7	46.6	6.5
昼 間	12.4	73.4	14.3	0.3

佐賀

表121 入学後の健康状況

区 分		起 来 時 の 状 態	起 来 時 の 状 態	起 来 時 の 状 態	起 来 時 の 状 態	起 来 時 の 状 態	起 来 時 の 状 態	起 来 時 の 状 態	起 来 時 の 状 態
区 分	割合	12%	36%	16%	2%	11%	17%	78%	8%
		12%	36%	16%	2%	11%	17%	78%	8%

佐賀 佐賀商業学校

表 122	機 力 状 况
1	2
3	4
5	6
7	8
9	10
11	12
13	14
15	16
17	18
19	20
21	22
23	24
25	26
27	28
29	30
31	32
33	34
35	36
37	38
39	40
41	42
43	44
45	46
47	48
49	50
51	52
53	54
55	56
57	58
59	60
61	62
63	64
65	66
67	68
69	70
71	72
73	74
75	76
77	78
79	80
81	82
83	84
85	86
87	88
89	90
91	92
93	94
95	96
97	98
99	100

20	15	12	10	09	08	07	05	05	04	03	02	01
石	石	石	石	石	石	石	石	石	石	石	石	石
5	4	3	2	1	0	0	0	0	0	0	0	0

大分 二 野上基等學校校章

表ノ23 目が悪いが、いつ直視に存つたか

思 い	思 ひ な い	計	入 学 後	入 学 前	ま れ つ き	計
180	357	537	75	108	1	184
335	265	100	417	577	0.6	100

山形中央高校

表 124 入 筆 後 における 視 力 の 状 態

		龍標に なつた	龍標が 進んだ	龍標より いふ横に 戻れる	龍なし
尺 音	調 曲	47 48	57 58	456 145	440 243

佐賀縣

第 5 章 近 視

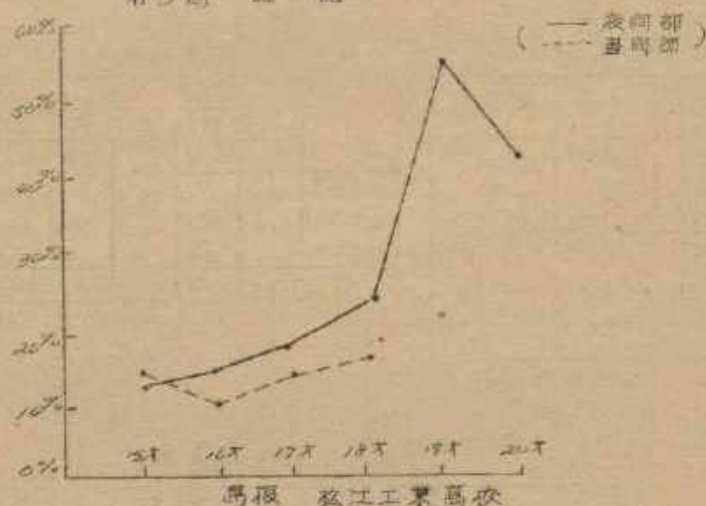


表 125 定時制の主な各疾病異常

検査人		血		腎		視		色		聴		中		鼻		肺	
男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
114	47	36	3	15	3			5				2			小		57

楊本 足尾銅校

表126 梶刀の疾患

區分	近視	弱視	色盲	色弱	計
人數	27	3	2	1	33
百分比	82	7	3	1	100

附不 足處高華筆收

表 12-7 結核健康診斷狀況

受検人	の疑性疾患有所見人員			他種健康障害の有 長期入院又は不 学人員
	要注意	要休養	要療養	
304	5	1	1	2

大办工部江高学校 校部

六、附 表

附 表 目 次

I. 勞 働 状 況	表 1 ~ 表 20
II. 就 学 状 況	表 21 ~ 表 29
III. 生 活 状 況	表 30 ~ 表 33
IV. 時 間	表 34 ~ 表 84
V. 疲 勞	表 85 ~ 表 103
VI. 健 康	表 104 ~ 表 121
VII. 疾 病	表 122 ~ 表 138
VIII. 労働と教育との関連に関する意見	表 139 ~ 表 142

表の項目については出来るだけ原調査
の名称をそのまま記載したため、項目
は不統一である。

表1 就職の有無

生 徒 数				比 率				備 考	
計	有 職	無 職	不明(%)	計	有 職	無 職	不明(%)		
4040	5152	808		100.0	28.0	22.0		山口	教育振興会
153	140	13		100.0	91.5	8.5		栃 木	栃 木 高 校
1604	1422	122		100.0	92.4	7.6		在 賀	筑 波 大 学
263	228	35		100.0	86.7	13.3			佐 賀 商 業
403	278	125		100.0	69.0	31.0		島 根	松江工業
226	210	12	4	100.0	92.9	5.3	1.8		商 工
37861	35059	2802		100.0	92.6	7.4		東 京	主 事 協 会
208	171	37		100.0	82.2	17.8		鹿 児 島	鹿 児 島 工 業
322	229	93		100.0	71.1	28.9		大 分	上 野 工 学 校
4211	3816	395		100.0	90.6	9.4		三 重	鳴 門 教 育 庁
889	822	67		100.0	92.5	7.5		宮 崎	本 教 育 振 興 会
2678	2254	424		100.0	84.2	15.8		山 形	山 形 中 央 高 校
537	481	46	10	100.0	89.6	10.4		山 形	山 形 中 央 高 校
5807	4634	923	25.1	100.0	79.8	16.9	4.3	太 田	教 育 委 員 会
6040	3366	2674		100.0	55.7	44.3		岩 手	教 育 庁
413	399	14		100.0	96.4	3.6		群 馬 川	川 崎 高 校
3219	3025	194		100.0	93.5	6.5		富 山	主 事 協 会
66874	59776	6813	26.5	100.0	89.4	10.6	4.4		計

表2 男女別就職の有無

生 徒 数								比 率	
男				女				男	
計	有 職	無 職	不明	計	有 職	無 職	不明	計	有 職
1335	1294	41		219	188	31		100.0	92.0
27083	26013	1070		10378	9061	1317		100.0	87.4
5311	4341	970	21.9	496	293	203	32	100.0	59.7
34179	31688	2491	21.9	11093	8482	2611	32	100.0	76.7
率								備 考	
男				女					
有 職	無 職	不明	計	有 職	無 職	不明	計		
8.6			100.0	85.9	14.1			佐 賀	筑 波 大 学
5.2			100.0	86.8	13.2			主 事 協 会	
14.1	0.2		100.0	59.1	34.5	6.4		教 育 委 員 会	
6.6	0.7		100.0	53.5	14.2	6.3			

表3 職業従事者

主 従 数			比 率		備 考	
生徒数 (A)	有職者 (B)	有職者中職業従事者 (C)	$\frac{C}{A}$	$\frac{C}{B}$		
4,000	3,152	242	6.0	2.1	山口	教育委員会
153	140	6	0.4	0.4	松本	松本高等学校
1,604	1,440	37	2.3	2.5	佐賀	佐賀県立高等学校
263	229	48	25.9	30.0	佐賀	佐賀県立高等学校
226	210	51	22.6	24.3	鳥取	鳥取県立高等学校
37,461	35,059	7,149	18.9	20.4	東京	東京府立高等学校
322	229	48	14.9	21.0	大分	大分県立高等学校
4,211	3,816	515	12.3	13.5	三重	三重県立高等学校
5,307	4,634	477	8.2	10.3	奈良	奈良県立高等学校
887	822	209	23.5	25.4	宮崎	宮崎県立高等学校
413	399	19	4.6	4.8	神奈川	神奈川県立高等学校
3,219	3,075	924	28.7	30.0	熊本	熊本県立高等学校
59,008	53,244	9,745	16.5	18.3	熊本	熊本県立高等学校

表4 男女別職業従事者数

主 従 数						比 率				備 考	
男			女			男		女			
生徒数 (A)	有職者 (B)	職業者 (C)	生徒数 (D)	有職者 (E)	職業者 (F)	$\frac{C}{A}$	$\frac{C}{B}$	$\frac{F}{D}$	$\frac{F}{E}$		
1,240	1,296	27	219	189	2					佐賀県立高等学校	
27,482	26,653	5,898	14,378	9,106	1,311					東京府立高等学校	
5,311	4,841	466	676	293	11					奈良県立高等学校	
34,179	34,328	2,313	11,093	9,487	1,270	18.7	20.2	11.4	13.6	前	

表5 産業別生徒数

		計		農	林	漁	鉱	建設	製造	商社	印刷	出版	運輸	通信	サービス	公務	その他
		生徒数	職業者														
山口	主事商校	3,070	470						1,337		210	15	154	41	253	300	
山形	中央西校	491	187					6	164		83	8	25	8	46		
広島	教育委員会	4,630	320						1,477	852	211	15			1,030	599	
熊本	松本会	2,215	327						282	571	339	7		106	276	346	
佐賀	佐賀商業	160							10	62	54		4	2	22	6	
神奈川	川崎西校	390	2						65	288	17				31	7	
三重	三重	3,016	396	30	21	11			1,221	454	362		131	17	316	651	
熊本	鹿沼西校	151							47	22	30	1			17	5	
熊本	佐賀商業	290	54						27	46	81				26		
熊本	松江商工	170							32	26	63	1	9	4	35		

表5 産業別生役数

		計	農	林	漁	鉱	業	製造	会	町	金	運	小	公	分
肉玉	教育局	1370	2852	6			120	2732		275		241	410	315	75
大分	上野立高校	223	37					50	34					61	23
鹿児島	鹿児島工業	171	15				22	75	17			4	7	16	15
山口	教育振興会	3152	107				1023	323	215		5		30	245	637
栃木	尾高高校	137			96	1	22		12			2	2	2	
佐賀	尾高高校	234	63				71		65					8	37
佐賀	保健資料	1085	213		3		52	327	95	934		31	24	242	4
計		2603	3603	36	24	107	201	8416	3049	3676	60	159	711	3041	2897
比		100.0	13.8	0.1	0.1	0.4	0.8	32.4	13.4	11.6	0.2	2.3	2.7	11.7	10.3

(註) 機取着を除く

表6 産業別 性別 生役数

		計	農	林	漁	鉱	業	製造	会	町	金	運	小	公	分
男	大分	教育委員会	4341	316				1399	831	242	10			747	1307
	熊本	振興会	2086	305				273	323	322	7		30	223	236
	神奈川	川崎高校	271	2				65	160	16				20	4
	埼玉	教育局	4431	1316	5		120	1878		325		266	257	261	570
	佐賀	保健資料	1265	203		1	52	298	80	432		28	7	158	4
子	計		12,624	2157	5	1	172	3711	1800	1394	17	294	325	1674	403
	比		100.0	17.4			1.4	31.5	12.7	11.1	0.1	2.4	2.7	13.0	2.3
女	大分	教育委員会	293	4				74	51	22	5			83	50
	熊本	振興会	198	12				7	46	17			16	48	50
	神奈川	川崎高校	107					94	1					11	3
	埼玉	教育局	869	136	1	2		253		60		35	151	112	29
	佐賀	保健資料	180	5		2	30	45	62			3	17	44	
子	計		1649	157	1	2		472	246	152	5	34	154	309	132
	比		100.0	9.5	0.1	0.1		28.6	12.3	9.2	0.3	2.3	11.2	18.2	8.0

表7 產製劑表農伐事自試

		表製劑表農伐事自試				
		計	製 劑	師 小 學 及 公 衆	老 幼	其 他
溫山	主事協會	220	470	31	176	197
太島	教育委員會	477	310	18	165	38
惠本	“振興會	528	327	25	151	70
三垂		515		153	362	
島殿	松江商工	51	40		11	
大分	上野立高教	48	37		11	
山口	教育振興會	282	107	22	82	31
島本	足利新教	136	63	21	31	21
	計	1965	1368	320	929	353
	百分比	100.0	69.6	16.2	47.3	17.9

表8 產製劑、性別、職業、從事年數

		表製劑表農伐事自試				
		計	製 劑	師 小 學 及 公 衆	老 幼	其 他
男	溫山 教育委員會	466	316	15	103	32
	惠本 “振興會	527	315	25	182	67
	計	993	631	40	285	99
	百分比	100.0	63.5	4.0	28.6	7.9
女	太島 教育委員會	11	4	3	2	2
	惠本 “振興會	48	12		7	23
	計	59	16	3	9	25
	百分比	100.0	27.1	5.5	15.0	42.4

表9 職權別、性別、從事年數

		計	一 般 職務	勞 務	的 此 小 學	自 己 管	其 他
山口	教育振興會	3122	185	2070	187	262	90
惠本	“振興會	1258	238	833	158	573	106
三垂	“振興會	4273	352	2531	278	677	251
	計	10593	2525	10434	737	1412	447
	百分比	100.0	24.6	95.3	5.2	12.6	4.3

表10 職權別、性別、從事年數

		計	一 般 職務	勞 務	的 此 小 學	自 己 管	其 他
男	溫山 教育委員會	4250	1215	2923	237	466	217
	惠本 “振興會	2056	459	836	162	529	70
	計	6306	1674	3759	399	995	287
	百分比	100.0	26.5	59.3	5.7	15.6	4.5
女	太島 教育委員會	228	130	108	37	11	32
	惠本 “振興會	198	78	67	16	44	16
	計	426	208	175	53	55	48
	百分比	100.0	48.5	40.2	12.5	12.9	11.2

表11 勤続年數

	計	六 月 未 滿	一 年	二 年	三 年	四 年	五 年	六 年	七 年	八 年	九 年	十 年	十 年 以 上
生 徒 數	2107	526	313	319	304	212	167	136	65	47	38	16	22
比 率	100.0	25.0	14.9	15.1	14.4	10.1	8.0	6.4	3.1	2.2	1.8	0.8	1.0

溫山主事會

表12 年令構成

	生徒数	割合
13才	2,618	11.6
14才	5,030	24.1
15才	4,887	22.7
16才	3,472	15.4
17才	2,300	10.2
20才～25才	3,910	17.8
26才～35才	328	1.5
36才以上	21	0.1
計	22,522	100%

(註) 大分県本位調査

宮崎、岩手、千葉、鳥取、
栃木、埼玉、神奈川の
資料による。

表13 男女別休学回数

	生徒数		比率	
	男	女	男	女
前内分初を主とする	127	49	22.3	32.0
事務を主とする	24	32	14.6	38.0
給仕、接待	-	9	-	9.6
一級記入	13	4	7.7	4.3
計	164	94	100.0	79.9

神奈川県川崎高校

表14 男女別休業内容

	男	女
重労働	16.8	0.1
中労働	51.9	45.0
軽労働	21.9	31.6
その他	9.4	22.5
計	100.0	99.9

佐賀県佐賀高校(生徒575人)

表15 休業状況

			農 業	食 品 製 造 業	木 材 業	印 刷 出 版 業	金 属 機 械 業	商 業	運 輸 通 信 業	公 益 事 業	サ ー ビ ス 業	公 務 会 社	計
男	生	業	0	1	4	1	4	0	0	2	36	52	
明	立	業	3	2	10	7	9	8	0	2	4	41	
で	か	業	0	0	4	0	6	1	1	0	0	12	
は	南	業	56	2	10	1	5	2	0	0	0	76	
ど	崎	業	0	0	1	0	1	4	1	1	0	8	
ん	理	業	0	1	1	2	3	3	1	0	4	11	
休	歩	業	0	0	0	0	1	0	1	2	0	4	

山形県中央高校

表16 休業の有無

	生徒数			比率			
	計	休日あり		休日なし	計	休日あり	休日なし
		定期前	不定				
山口県教育振興会	3062	2925		287	100.0	90.6	9.4
山形県主幹協会	2107	1872	199	36	100.0	98.3	1.7
熊本県教育振興会	2218	1924		294	100.0	86.7	13.3
東京主幹協会	35059	32669		2390	100.0	93.2	6.8
計	42406	39240	199	3607	100.0	92.9	7.1

表17. 一ヶ月の休日回数

		生 徒 数				比 率			
		計	山口県教育振興会	山口県主事協会	山口県教育振興会	計	山口県教育振興会	山口県主事協会	山口県教育振興会
1	回	311	125	23	363	78	45	12	10.9
2	回	285	238	213	332	11.9	26	11.5	17.3
3	回	501	263	197	41	76	75	10.5	2.1
4	回	4699	1927	1300	872	624	674	69.5	45.2
5	回	538	126	105	257	8.2	63	5.6	13.4
6回以上		137	46	32	59	2.1	1.7	1.7	3.1
計		6571	2775	1872	1924	100.0	100.0	100.0	100.0

表18. 一ヶ月の資金階級分布

		生 徒 数						比 率					
		計	山口県教育振興会	山口県主事協会	山口県教育振興会	山口県主事協会	山口県教育振興会	計	山口県教育振興会	山口県主事協会	山口県教育振興会	山口県主事協会	山口県教育振興会
2000円未満	円未満	2150	2428	168	296	21	367	35.3	43.6	11.0	29.1	15.8	25.4
2000 ~ 3000	円未満	1205	585	203	123	41	315	12.5	28.8	17.8	16.7	36.3	19.2
3000 ~ 4000		1256	585	126	122	26	378	12.5	10.2	12.5	16.1	14.3	16.7
4000 ~ 5000		1117	654	103	89	13	267	12.6	11.7	14.2	11.8	9.6	11.9
5000 ~ 6000		965	513	120	65	7	240	9.7	9.0	13.9	8.6	5.2	10.7
6000 ~ 7000		559	248	77	23	5	170	8.6	5.0	7.3	3.6	3.7	2.6
7000 ~ 8000		454	232	77	10	8	113	4.6	4.0	7.5	2.6	5.9	5.0
8000 ~ 9000		255	159	44	5	1	66	2.6	2.4	4.2	0.7	0.7	2.9
9000 ~ 10000		187	102	27	7	1	48	1.7	1.5	2.5	0.9	0.7	2.1
10000円以上		312	202	30	2	4	74	3.1	3.5	2.7	0.3	3.0	3.3
計		5508	5728	1050	757	135	2338	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

(註) 1. 都庁(都庁) 地方(山口県本県児島島取)の資料による
2. 都庁が4000円以上の階級はなく、又不明20は表には記されてない。

表19. 男女別、資金階級分布

		男			女		
		島教育委員会		主事協会	島教育委員会		主事協会
		生徒数	比率	比率	生徒数	比率	比率
2000円未満	円未満	193	27.7	2.6	31	30.5	2.0
2000 ~ 3000	円未満	137	21.3	4.9	29	28.4	6.7
3000 ~ 4000		120	18.6	1.73	20	19.6	20.6

表17 男女別資金階級分布

	男			女		
	馬教育 取委員会	主事 東京 協会	主事 東京 協会	馬教育 取委員会	主事 東京 協会	主事 東京 協会
	生徒数	比 率	比 率	生徒数	比 率	比 率
4000 ~ 5000	73	11.3	27.7	13	12.7	32.7
5000 ~ 6000	61	9.5	22.9	4	3.9	24.3
6000 ~ 7000	26	4.0	11.4	5	4.9	9.5
7000 ~ 8000	17	2.6	4.9			2.3
8000 ~ 9000	9	1.4	2.7			0.7
9000 ~ 10000	6	0.9	2.7			0.5
10000 以上	3	0.5				
計	645	100.0		102	100.0	

(註)東京の場合は、被記入者を削除したため100.0にならな。

表20 仕事に対する満足・不満度

	満 足	不 満 足	不 明	計
山形 中央西校	71	138		209
栃木 足尾高校	77	60	4	141
富山 富山高校	659	1281	167	2107
山口	2183	1094		3281
計	2790	1572	171	4533
比 率	32.2	44.8	3.0	100.0

表21 現在の仕事を将来も継続する見込みの有無

	将来も 継続する 見込み	将来も 継続する 見込み	計
千葉 大宮高校	31	77	108
栃木 足尾高校	77	66	143
計	108	143	251
比 率	43.0	57.0	100.0

表22 遅刻の有無及回数

	比 率
毎日遅刻する	11.0%
1 回	5.3
2 回	7.1
3 回	6.8
時々遅刻する	22.4
遅刻しない	58.9

栃木高校

表23 遅刻の理由

	生徒数	比 率
汽車電車遅延のため	27	37.5
教職員業のため	12	16.6
家族病気が忙しいため	16	22.2
通学路や自分の用があるため	2	2.7
夕食を食べて来たため	7	9.7
身体や交通事故のため	5	6.9
途中で寝てきたため	1	1.3
その他	3	4.1
計	72	99.7

栃木県佐野高校

表24 出席率

富山	主事協会	5校調査	10.6%
東京	主事協会		15.1%
馬場	松江町高		10.2%
栃木	足尾高校		13.7%
新潟	教育委員会		14.3%

表25 一平商の欠席日数分布

	男	女	男	女	計
0	416	328	82	147	102
1 ~ 10	1717	818	332	322	347
11 ~ 20	935	369	183	167	174
21 ~ 30	539	220	115	100	111
31 ~ 40	347	143	68	63	67
41 ~ 50	278	72	54	33	48
51 ~ 60	262	76	51	34	46
61 ~ 70	300	80	57	36	52
71 ~ 120	85	33	19	15	18
121 ~ 150	73	25	14	11	13
151 ~	188	40	17	18	18
計	5100	2204	1000	1000	1000

岐阜県教育委員会

表26 欠席の理由

	生徒数のめりうかなもの					岐阜県教育委員会		
	山 口 教 育 委 員 会	高 松 教 育 委 員 会	新 潟 教 育 委 員 会	富 山 主 事 務 局	計	比 率	高 松 教 育 委 員 会	山 口 教 育 委 員 会
勤務のため	1208	476	285	497	2326	236	582	251
病気のため	2524	501	38	154	3217	342	246	182
家族の都合	1131	327	91	314	1863	221	08	55.7
その他	237	84	127	65	1017	12.1	164	20
計	5600	1392	501	930	8423	1000	1000	1000

表27 休学の状況

年度	学校数	休学率
25	718	約 5%
26	1060	6%
27	711	4%
28	678	3%

新潟県教育委員会

表28 進学状況

	入学時生徒数				現在生徒数				
	山 口 教 育 委 員 会	高 松 教 育 委 員 会	新 潟 教 育 委 員 会	計 (A)	山 口 教 育 委 員 会	高 松 教 育 委 員 会	新 潟 教 育 委 員 会	計 (B)	$\frac{B}{A} \times 100$
四年生	2681	239	2186	5016	1467	125	1113	2705	53.9
三年生	2477	220	2238	4935	2139	213	1287	3639	62.5
二年生	3631	462	2066	6209	3775	335	1638	5748	76.5

表 28 耳 体 檢 査

	A 素菜(肉類) の比率%	B 肉類を少し 減らした	C 野菜を増や す
比 率	100%	49%	47%

表 29 股挫症(本人の申告による)

高いもの	安いもの
22.1%	21.9%

長崎市立高校

長崎市立高等学校

表437 経性症(本入り甲止による)

荷換性のもち	美の備のもち	木 剛
12.6%	67.7%	14.5%

長嶺市立高校

表13/ 臨末の健康状態

項目	肺痿核	肺痿洞	肺癰炎	胃腸病	肺全葉病	脾炎	盲腸炎	腹病	頸部	咽喉病	喉發熱病	其他	計	既治愈	合計
人数	14	46	23	300	22	166	180	294	1062	21	17	27	2773	969	3742
%	07	21	26	138	10	76	83	125	422	14	6	12	100	30.6	130.6

富山 保島 年々 狹定時 州教育 湯鐵 会

表 132 現在の建築状況

項目	閉鎖症	弗愛酒	助便炎	胃腸炎	十二指腸	痢疾	盲腸炎	眼病	耳聾	其の他	計	健康者	合計
人数	4	2	8	13	2	22	14	30	119	71	442	2,508	2,750
%	0.9	1.6	1.8	2.6	2.0	20.6	3.1	3.5	24.0	17.4	100.0	84.8	100.0

滿等學校定時開辦教育協議於

表 123 校内における内科疾患

	腹痛	腰痛	发热	微血	呕吐	昏迷	打寒战	燥渴	防制	制制	强直	昏倒
直向	162	184	36	06	47	54	93	72	231	52	14	23
皮向	254	277	36	18	18	18	31	100	35	07	—	11

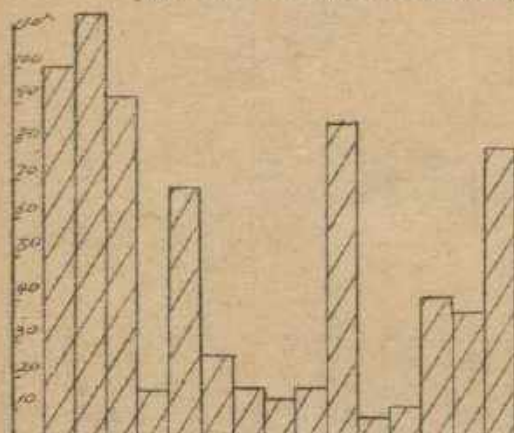
海軍

卷之四 病後八篇

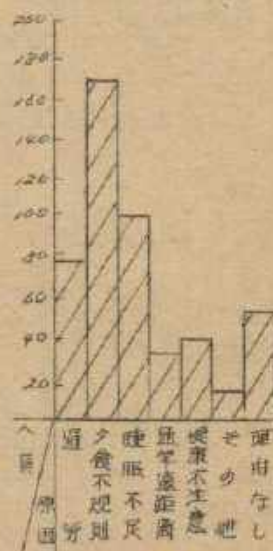
	訂	視 箱	下 類	底 箱	頭 類	外 類	底 類
底 用	1000	242	212	21	200	142	20
基 面	1000	242	212	212	200	142	20

佐 實

第6回 入学後どんな病気をしたか



オク選 読者の原書はどこにあるか



在賈誼等學校

表 23 健康臨産生児数

地区	年代	時			
		男	女	計	%
豊川市	昭和40年	61	15	76	39
	昭和41年	69	17	86	35
豊川市(市外)	昭和40年	80	38	118	61
	昭和41年	92	50	142	65
計	昭和40年	141	53	194	100
	昭和41年	161	67	228	100

表136 販場ではとくして病買や修買が多いか

公 務 公 社	サ ー ビ ス 業	公 益 業	運 輸 通 信	商 業	金 屬 機 械 業	印 刷 出 版 業	木 材 業	食 品 製 造 業	娯 楽
結核性疾患 癩病	結核性疾患 癩病	結核性疾患 癩病	結核性疾患 癩病	胃腸風邪	花柳性疾患 梅毒	結核性疾患 癩病	腰痛 切傷	頭痛 腹痛	神志病 癩病

主) 1. この学校に入つてから悪くした
2. この学校に入つてから悪くしない
貴院主事 金

山形中央高致

表 137 定海縣基督教信徒の姓名世帯表に於ける

性 別	調查人員	被採人員	比率
計	20,633 ^人	306 ^人	1.48%
男	17,484	281	1.49
女	3,149	25	1.43

表 3.9 高等学校生の政治的成熟性に関する調査結果

性別	年齢	交換人員	全給食 (キロの計)	1日当り 給食量	町域 その他	その他 給食
計		87.005	0.71	0.80	0.28	0.03
男		35.842	0.69	0.80	0.27	0.02
女		27.162	0.73	0.82	0.30	0.05

註 この取扱は有業者、熟業者の制である
婦人少児局

註 この日は学校衛生課計測室により、昭和26年4月に行われた定期身体検査の結果を基計(抽出)して表された。保健統計課版65の第2表「公立児童生徒の学校健康疾病異動の交換人員と該当率」から抽出したものである。

表137 夜半通車に対する快用者 同原 家族の混雑状況

	合 計	非 常 に 混 雑 し て 居 る	い く 分 混 雑 し て 居 る	音 通	あ ま り す ず か い	混 雑 さ る	反 対 す る		
快 用 者	1757	205	533	401	126	32	0	三 宮 駅 前	本 取 山 平
	37	19	13	7	2	1	0		
	480	206	175	65	33	11	0		
	3417	1482	1315	545	182	23	0		
	840	300	338	164	67	23	0		
	147	50	42	37	7	1	0		
	2013	208	633	473	173	31	0		
	2961	3087	3110	1338	652	212	0		
	比 率	26.5	34.7	20.7	1.3	2.4	0		
上 司	1454	305	510	466	150	27	0	三 宮 駅 前	本 取 山 平
	52	13	8	22	7	0	0		
	1310	318	518	488	150	36	0		
	100.0	21.1	34.3	32.3	7.7	2.4	0		
同 僚	87	16	22	27	0	4	0	三 宮 駅 前	本 取 山 平
	100.0	23.2	31.1	37.1	0	2.8	0		
家 族	2244	1391	498	216	24	15	0	三 宮 駅 前	本 取 山 平
	1410	305	650	76	127	20	0		
	508	303	186	36	37	6	0		
	4204	2714	1078	365	27	30	0		
	1066	606	357	68	21	14	0		
	283	106	97	31	7	20	0		
	155	62	43	41	0	3	0		
	2723	1602	716	272	78	41	0		
	12694	7329	3127	1124	453	161	0		
	100.0	57.6	28.6	8.7	3.6	1.3	0		

表140 夜半通車に対する快用者 同原 家族の混雑状況

	合 計	非 常 に 混 雑 し て 居 る	い く 分 混 雑 し て 居 る	音 通	あ ま り す ず か い	混 雑 さ る	反 対 す る	不 明		
快 用 者	100.0	36.7	28.4	25.4	4.2	1.3			山 形 手 京	山 形 手 京
	100.0	65.8	6.9		13.2	1.8	12.3			
	100.0	26.1	29.9	26.0	8.7	3.6	5.7			
上 司	100.0	24.7	34.1	32.4	7.4	6.7			山 形 手 京	山 形 手 京
同 僚	100.0	33.6	26.0	34.4	5.5	6.5				
	100.0	66.6	7.0	14.0	4.0		14.0		山 形 手 京	山 形 手 京
家 族	100.0	39.2	21.1	16.2	2.7	0.8				
	100.0	63.9	11.9	14.7	2.1	0.8	6.6			
	100.0	45.6	27.7	11.2	6.8	1.5	5.2			

表141 東時制高等学校入学後の変化（生徒保護者）

好 ま し い 変 化															
研究的に なつた	学力が 向上した	思慮が 深くなった	生活が 規則的になった	自主的 になった	社会性 が増した	教養が 高くなった	読書が 多くなった	能書が 多くなった	応用が 多くなった	明朗が 多くなった	努力が 向上した	習慣が 少なくなった	態度が 真面目になった	礼儀が 正しくなった	その他
25	41	21	26	22	18	19	13	12	12	11	8	8	4	3	35
好 ま し く な い 変 化															
苦悶が 多くなった	生活が 不規則になった	言葉遣い が悪くなった	習慣が 悪くなった	身体が 健康でなくなった	反抗的 になった	読書が 多くなった	自主性 が多くなった	能書が 多くなった	応用が 多くなった	明朗が 多くなった	努力が 向上した	習慣が 少なくなった	態度が 真面目になった	礼儀が 正しくなった	その他
26	20	20	17	17	16	11	10	7	6	3	3	3	22		

岩手 教育 方

表142 努力と教育との相立性

	経済的				身体的				精神的			
	面 立 する	々 々 面 難	困難 を め げ る	不 明	面 立 する	々 々 面 難	難 勞	不 明	面 立 する	々 々 面 難	苦 痛	不 明
熊本教育振興会	24.9	13.3	1.8		28.8	19.5	5.7		20.5	20.4	5.1	
山口	27.2	2.4	1.4		20.0	25.0	2.2		21.6	23.7	4.7	
岩手 教育 庁	24.2	11.3	4.2	10.3	24.7	15.8	2.4	2.1	22.6	11.7	3.6	2.1

年少労働調査資料（最近発行のもの）

註（）内の実とは、実態調査　資とは資料調査の略である。

第 20 集　高等学校定時制課程生徒の健康調査（資）

第 21 集　最低年齢以下の年少労働者の労働条件調査（資）

第 22 集　工業的職業に働く年少者の身体的直性に関する
調査（実）

第 23 集　新聞販売をしている年少者（実）

第 24 集　危険有害な業務に使用されている年少者（資）

第 25 集　衛生上有害な業務を含む事業場に関く年少者
（実）

第 26 集　年少者の不当雇用慣習——東北篇——（実）

第 27 集　狭間中学校に学んでいる年少者（実）

正 誤 表

頁	行	誤	正
はしり	7	何38の調査	何38の調査
3	12	1回程度	1回も
4	20	所親のあは者70.0%	所親のあは者70.0%
4	12~13	多いが	多いが
4	21	ことである	ことである
6	4	まず同僚が	同僚が
11	26	身心の	心身の
12	11	交通の便はいい47%	交通の便はいい47%
15	17~18	面であるし	面であるし
16	30	「その他」	「その他」
17	32	次の時刻分類	次の時刻分類
18	34	学校で終つて	学校で終つて
20	4	「はい」	「はい」
21	12	回答している	回答している
22	11~22	夜間同族57%	夜間同族57%
24	21~24	梅雨期80%	梅雨期80%
25	7	比率が低い	比率が低い
26	20	学校を勤め	学校を勤め
27	22	多分新年度研究所	多分新年度研究所
28	30	被験者	被験者
29	33	カニブリニ一試法	カニブリニ一試法
30	表下34行	並列の時たものが	並列の時たものが
31	表下35行	算数三法	算数三法
32	表下36行	中絶の神を以て文化	中絶の神を以て文化
33	表下37行	算数三法	算数三法
34	表H	算数三法	算数三法
35	表H310行	算数三法	算数三法
36	表丁	算数三法	算数三法
37	表丁電気内光伝	算数三法	算数三法
38	表丁取種別	算数三法	算数三法
39	表丁取種別	算数三法	算数三法
40	表L310行	算数三法	算数三法
41	4	分10過程	分10過程
42	4	思われる	思われる
43	表B35行	勝つて	勝つて
44	5	勝つて	勝つて
45	4	坐高比較すると	坐高比較すると
46	6	勝つて	勝つて
47	表D312	勝つて	勝つて
48	1	「顔が重い」	「顔が重い」
49	16	昼間14.5%	昼間14.5%
50	1	男子14.9%	男子14.9%
51	10	使用が非常に	使用が非常に
52	15	7.2%あり	7.2%あり
53	16	身体が軽いもの	身体が軽いもの

GAa1/1

労働省婦人少年局



女性と仕事の未来部



00761819